

横浜市

幼保小連携・接続に関する調査 2022

報告書

横浜市こども青少年局

横浜市教育委員会

調査 2022 の趣旨 ならびに 調査について

【名 称】横浜市幼保小連携・接続に関する調査 2022

【実態調査の趣旨】

横浜市子ども・子育て支援事業計画の基本政策1「乳幼児期の保育・教育の充実と学齢期までの切れ目のない支援」において、保育・教育の質確保・向上に向けた幼保小の連携や交流、接続カリキュラム等の実施状況を把握するため、市内保育施設、小学校を対象とした実態調査を実施した。また、調査結果を活かし、幼保小連携諸事業の現状と課題について考察するとともに、課題解決に向けた新たな取り組みにつなげていく。

【調査対象】

- (1) 横浜市内の幼稚園・認定こども園・公立保育所・私立保育所
※年長児が在籍していない(新規開設を含む)施設も調査対象としています
- (2) 私立小学校・義務教育学校(前期課程)
※令和元年度から、横浜市立特別支援学校を除く

【調査方式】 アンケート方式(令和4年12月19日(月)～令和5年1月20日(金))

- (1) 幼稚園・認定こども園・公立保育所・私立保育所：横浜市電子申請システム
- (2) 市立小学校・義務教育学校：学校便利帳 簡易集計システム

【調査対象期間】 令和3年度及び令和4年度(令和4年度小学校入学児童の接続期を対象)

【回収状況】

	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	全体数	提出数	回収率	全体数	提出数	回収率	全体数	提出数	回収率
幼稚園	229	152	66%	226	180	80%	223	84	38%
認定こども園	55	50	91%	60	51	85%	64	39	61%
私立保育所	752	500	66%	771	591	77%	795	481	61%
公立保育所	69	69	100%	65	65	100%	61	61	100%
小学校・義務教育学校	340	340	100%	339	339	100%	338	338	100%
合 計	1445	1111	77%	1461	1226	84%	1481	1003	68%

【調査担当】

幼稚園・認定こども園・保育所・・・ 子ども青少年局 子育て支援課 幼保小連携担当
小学校・義務教育学校・・・ 教育委員会小中学校企画課

【報告書編集・発行】

子ども青少年局保育・教育人材課幼保小連携担当 671-3731

幼児教育施設編

□ 幼児教育施設 回答率：58.1% 全(665園/1143園)

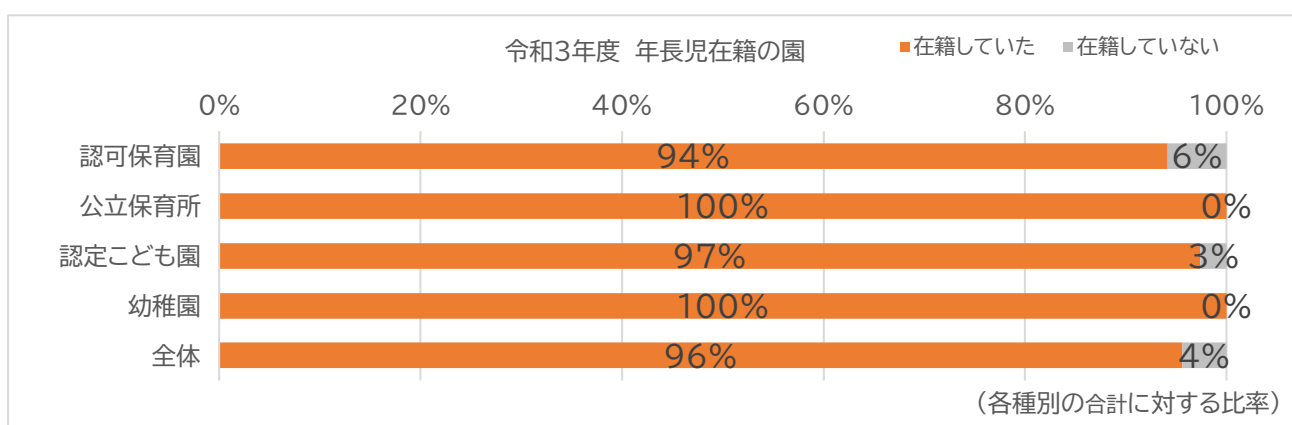
調査全体の分母

認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
795	61	64	223	1143

各種別の総数

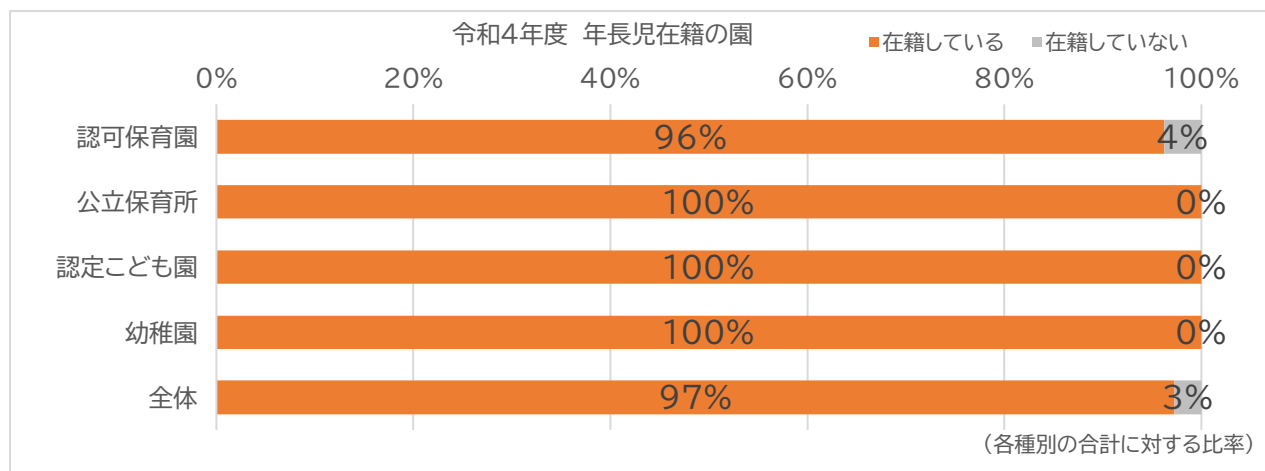
認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
481	61	39	84	665

昨年度（令和3年度）、園に年長児が在籍していましたか



	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
在籍していた	453	61	38	84	636
在籍していない	28	0	1	0	29

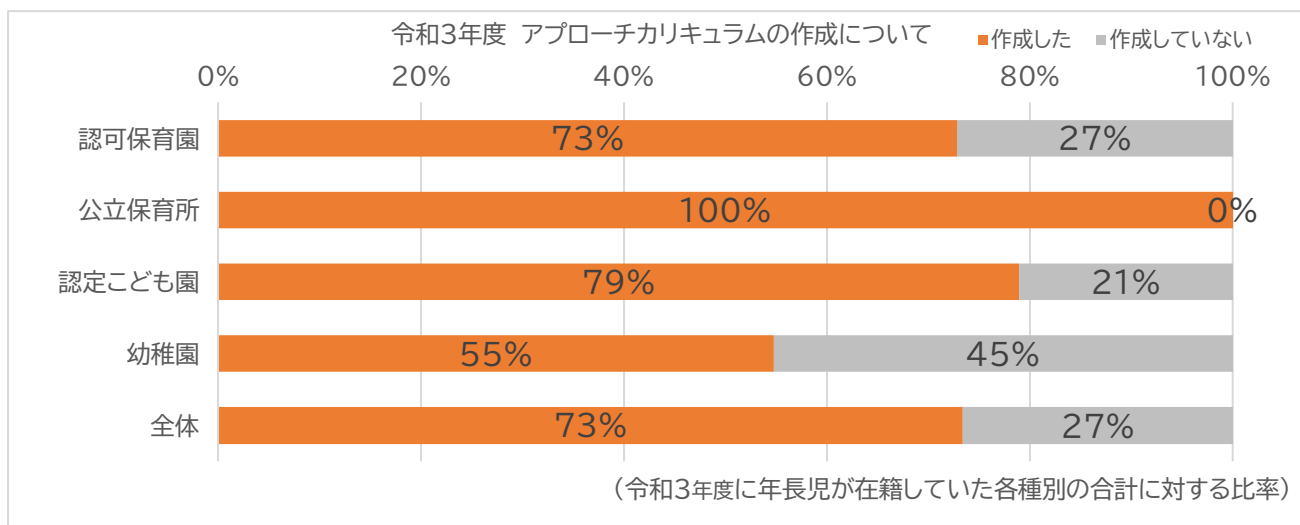
今年度（令和4年度）、園に年長児は在籍していますか



	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
在籍している	463	61	39	84	647
在籍していない	18	0	0	0	18

I 昨年度（令和3年度）実施した取組についてお答えください。

問1 幼児期の保育・教育から小学校教育への円滑な接続を大切にしたい、年長後半時期のカリキュラム（アプローチカリキュラム）は作成しましたか。



令和3年度に年長児が在籍していた かつ 作成した or 作成していない 園の数

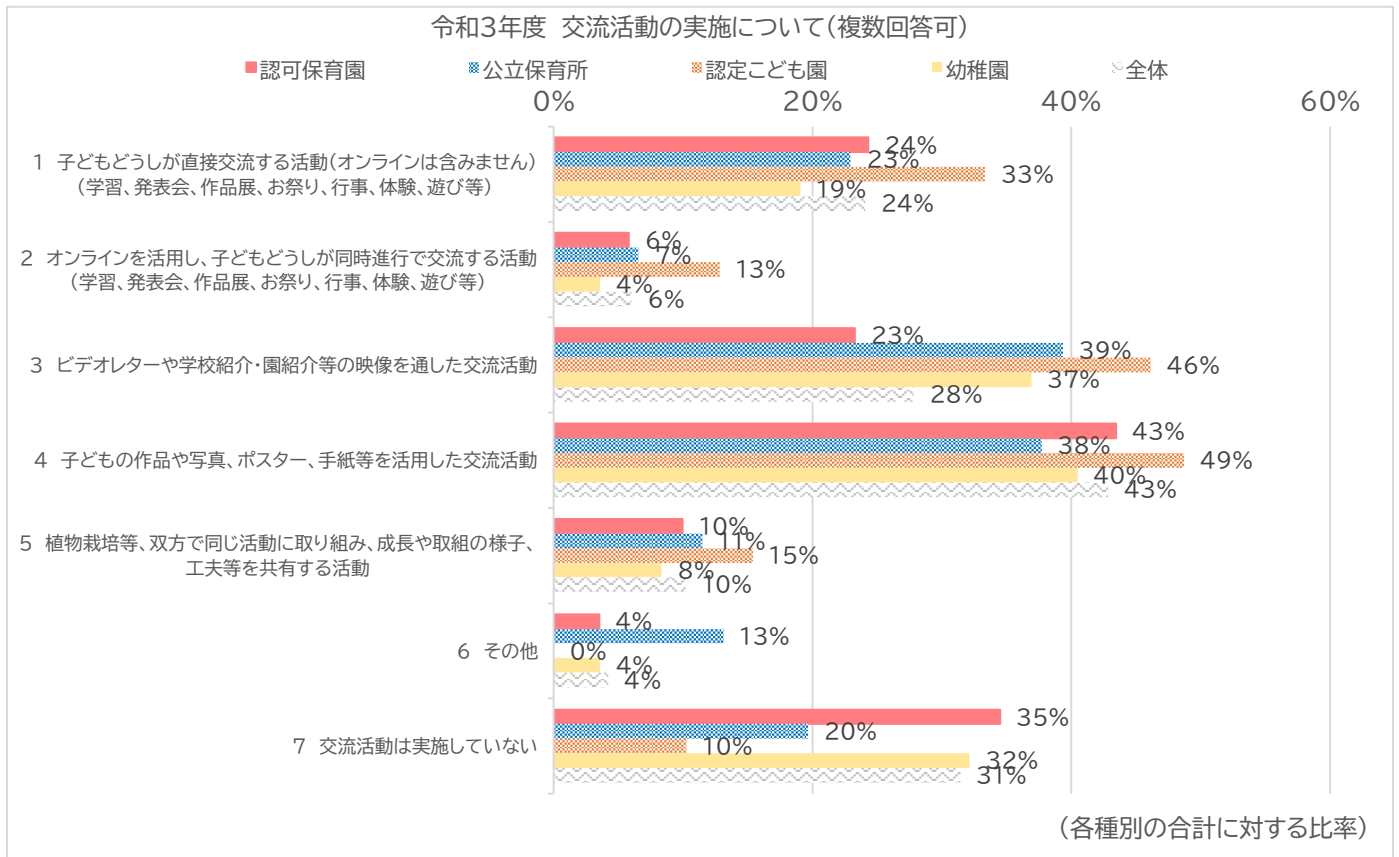
	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
作成した	330	61	30	46	467
作成していない	123	0	8	38	169

【分析】

・アプローチカリキュラムの作成について、調査結果から全体で73%の割合で実施されていることが明らかとなった。特に、公立保育所では100%の取り組みが確認され、この分野において積極的な取り組みが行われていることが示唆される。

I 幼保小の交流活動に関すること

問2 近隣またはブロックや連携先の小学校と、子どもどうしが一緒に活動する「交流活動」を行いましたか。（複数回答可）

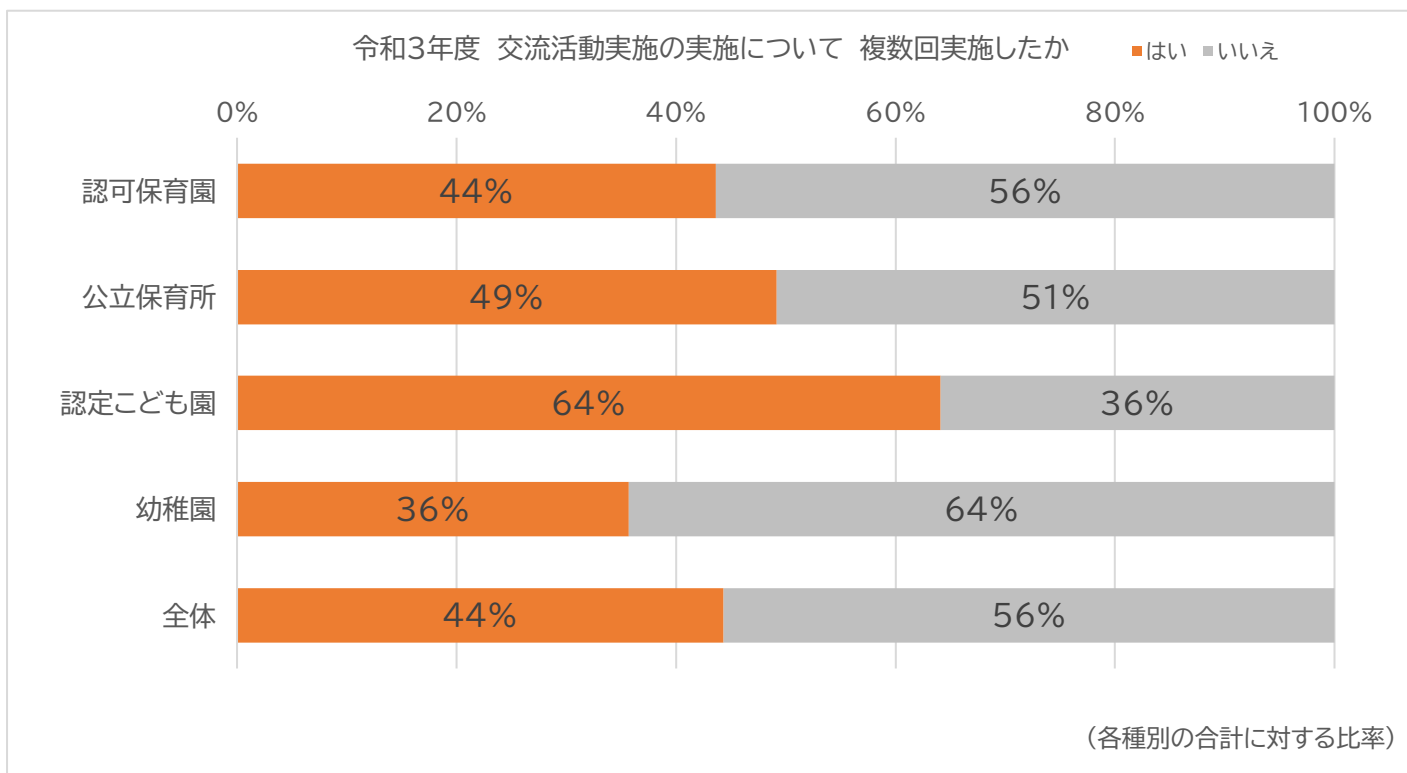


	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
1 子どもどうしが直接交流する活動(オンラインは含みません) (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	117	14	13	16	160
2 オンラインを活用し、子どもどうしが同時進行で交流する活動 (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	28	4	5	3	40
3 ビデオレターや学校紹介・園紹介等の映像を通じた交流活動	112	24	18	31	185
4 子どもの作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動	209	23	19	34	285
5 植物栽培等、双方で同じ活動に取り組み、成長や取組の様子、工夫等を共有する活動	48	7	6	7	68
6 その他	17	8	0	3	28
7 交流活動は実施していない	166	12	4	27	209

≪6その他 自由記述 抜粋≫

- ・小学校の様子をまとめていただいたものを、年長児が見て、小学校への期待を膨らませる活動ができた
- ・小学校が育てた花苗を保育園門扉前に置き、小学生が水やりなどにくる。
- ・園だよりを園児が届けに行く
- ・音楽交流会
- ・交流ができなかったが、小学校の校庭の花壇に球根を植えに行った。
- ・散歩を兼ねて校庭を見学させて頂いた。

上記「交流活動」は令和3年度内で「複数回」実施されましたか。



	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
はい	210	30	25	30	295
いいえ	271	31	14	54	370

【分析】

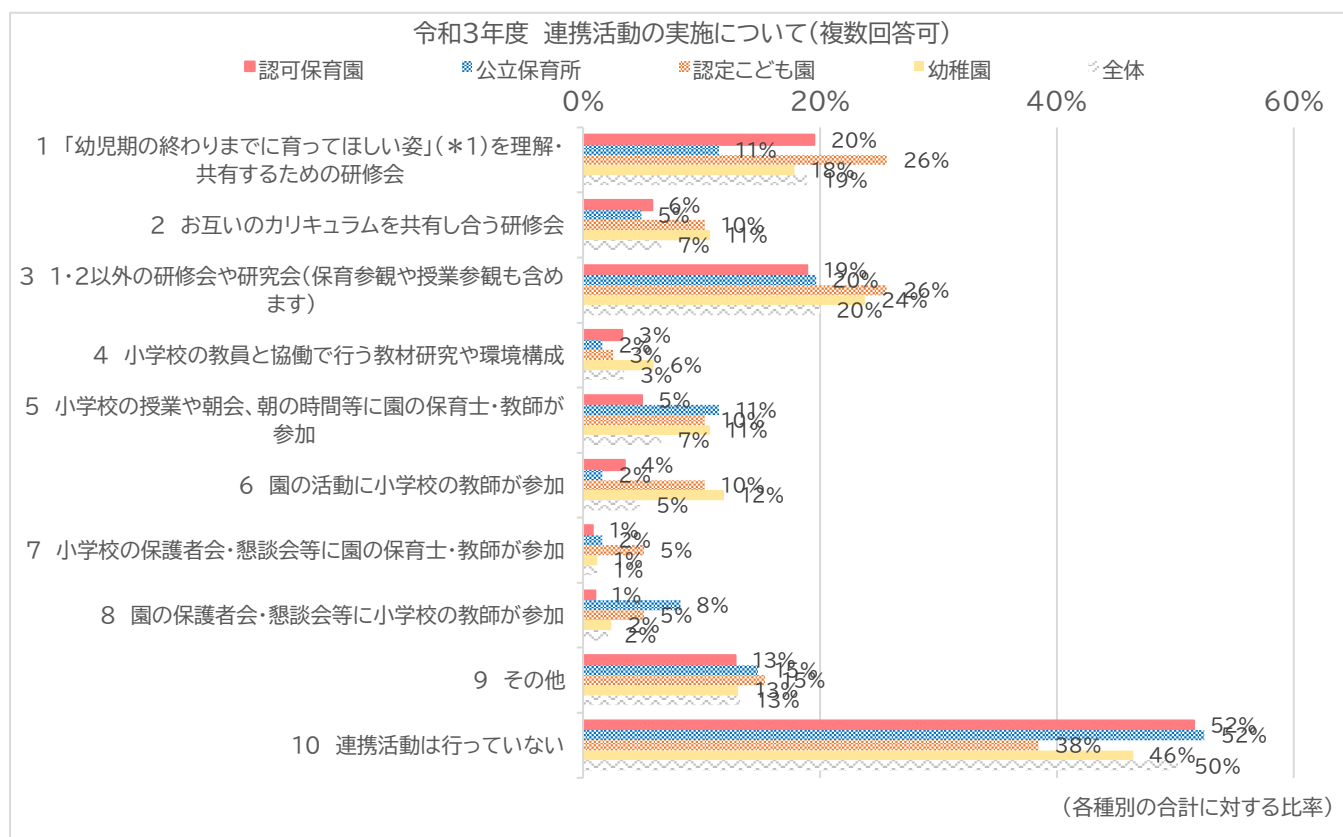
・「1.子どもどうしが直接交流する活動」は全体で24%と低い水準であった。コロナの影響で計画が中止や自粛となった園も多かったと考えられる。

・令和3年度に、「1.子どもどうしが直接交流する活動」「2.オンラインを活用し、子どもどうしが同時進行で交流する活動」を実施した園では、複数回にわたって活動を実施した割合が特に高い。このことから、単発的な活動にとどまらず、小学校と複数回交流していることがわかる。この結果から、オンラインによる交流活動も可能であり、単発的でない交流が促進される可能性があることが示唆される。

令和3年度	交流活動実施		
	1回以上 園数	複数回	
		園数	割合
1 子どもどうしが直接交流する活動(オンラインは含みません) (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	160	133	83%
2 オンラインを活用し、子どもどうしが同時進行で交流する活動 (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	40	37	93%
3 ビデオレターや学校紹介・園紹介等の映像を通じた交流活動	185	131	71%
4 子どもの作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動	285	210	74%
5 植物栽培等、双方で同じ活動に取り組み、成長や取組の様子、工夫等を共有する活動	68	54	79%
6 その他	28	15	54%

Ⅱ 幼保小の連携活動に関すること

問3 近隣またはブロックや連携先の小学校と協働し、大人どうしと一緒に活動する「連携活動」を行いましたか（複数回答可） オンラインでの実施も含まれます

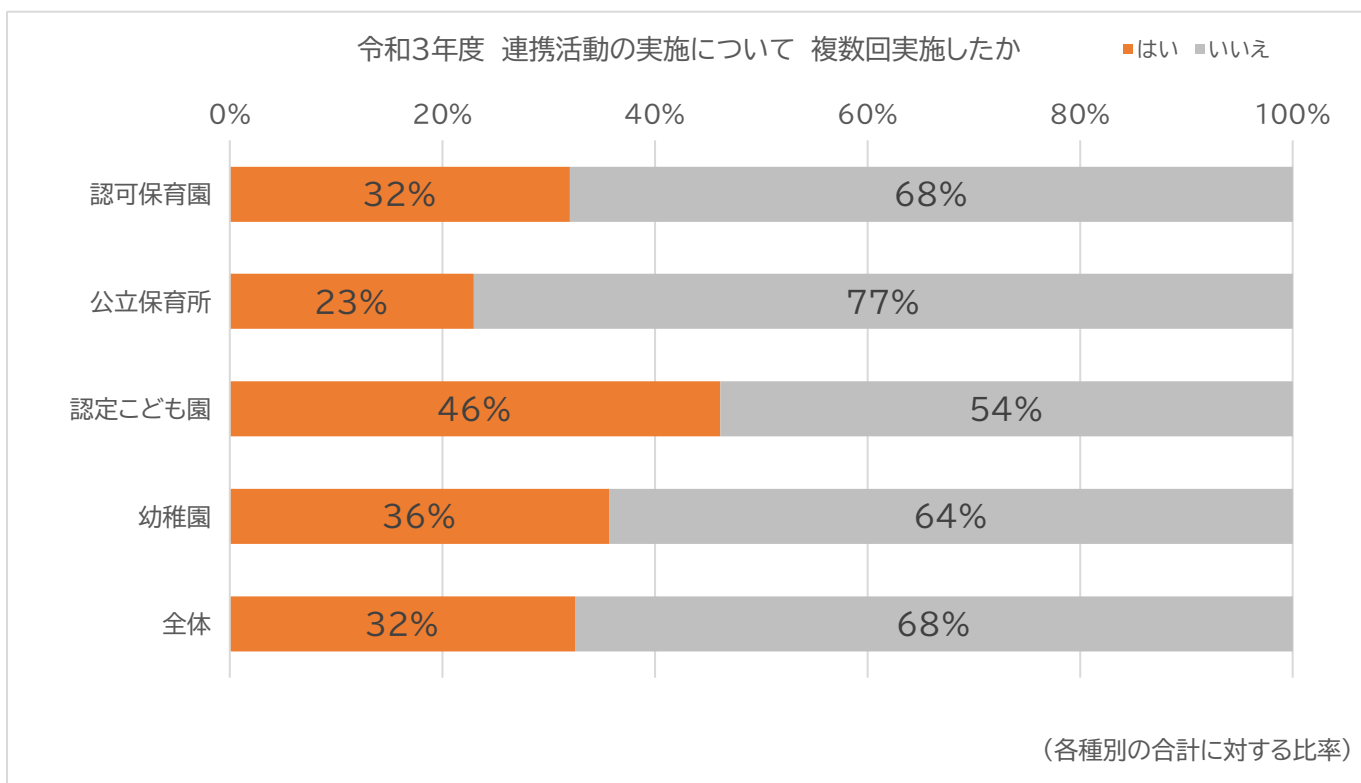


	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
1 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(*1)を理解・共有するための研修会	94	7	10	15	126
2 お互いのカリキュラムを共有し合う研修会	28	3	4	9	44
3 1・2以外の研修会や研究会(保育参観や授業参観も含めます)	91	12	10	20	133
4 小学校の教員と協働で行う教材研究や環境構成	16	1	1	5	23
5 小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育士・教師が参加	24	7	4	9	44
6 園の活動に小学校の教師が参加	17	1	4	10	32
7 小学校の保護者会・懇談会等に園の保育士・教師が参加	4	1	2	1	8
8 園の保護者会・懇談会等に小学校の教師が参加	5	5	2	2	14
9 その他	62	9	6	11	88
10 連携活動は行っていない	248	32	15	39	334

《9 その他 自由記述 抜粋》

- ・保護者からの質問について小学校の先生に回答をもらい、懇談会でお話しした。
- ・幼保小推進委員会を年4回開催。情報交換を行った。
- ・交流会においての幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を出し、小学校に報告
- ・電話などで情報共有を行った。

上記の職員同士の「連携活動」は、令和3年度内に「複数回」行われましたか。



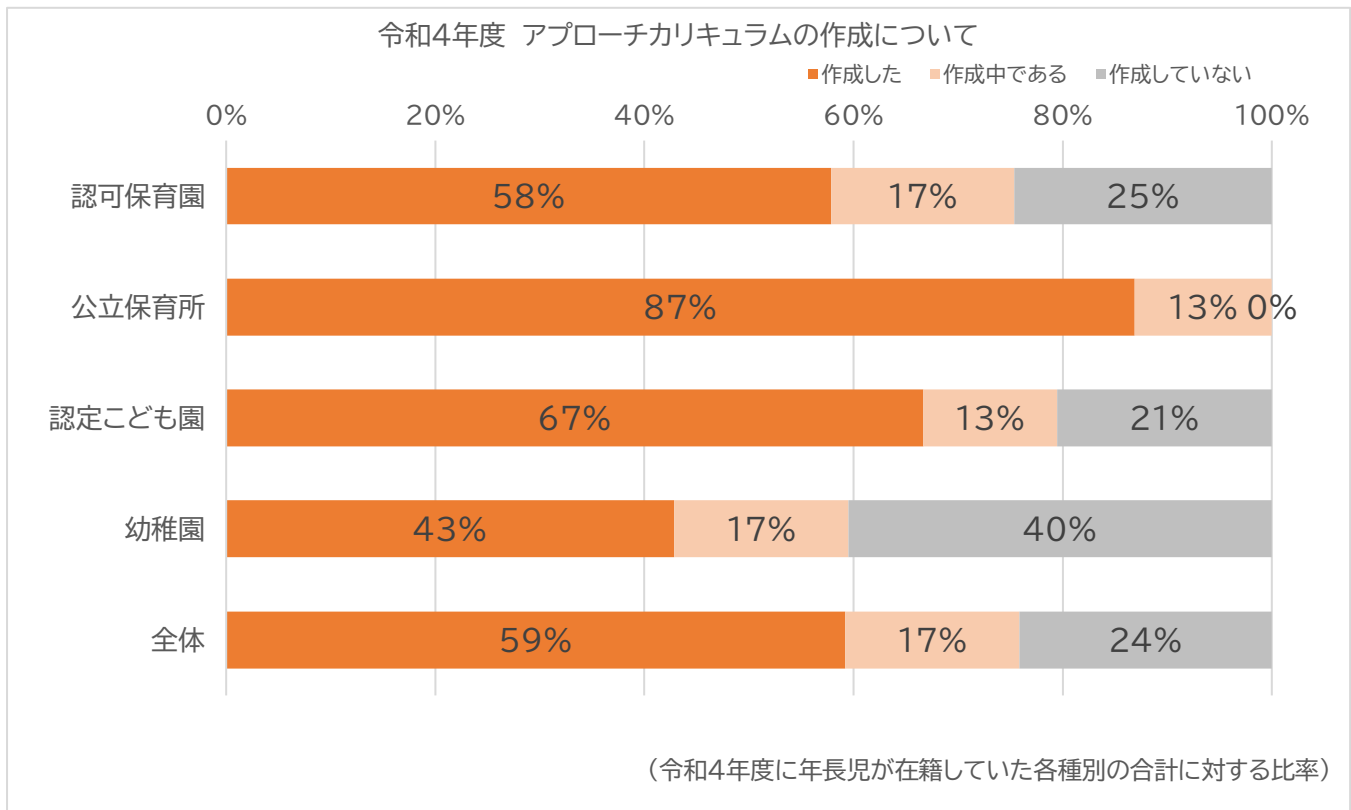
	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
はい	154	14	18	30	216
いいえ	327	47	21	54	449

【分析】

- ・全体で半数が「10.連携活動は行っていない」と回答し、複数回実施した園は約30%と低い水準であった。
- ・「9.その他」の回答から、電話で情報共有や申し送りを行っている園が複数存在することが明らかとなった。

II 今年度（令和4年度）実施した取組についてお答えください。
（今後実施する予定の取り組みも含まます）

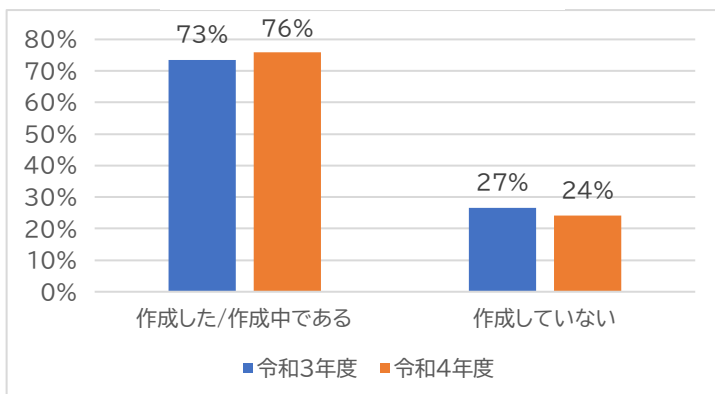
問4 幼児期の保育・教育から小学校教育への円滑な接続を大切にしたい、年長後半時期のカリキュラム（アプローチカリキュラム）は作成しましたか。



令和4年度に年長児が在籍している かつ 作成した or 作成中 or 作成していない 園の数

	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
作成した	268	53	26	36	383
作成中である	81	8	5	14	108
作成していない	114	0	8	34	156

アプローチカリキュラムの作成

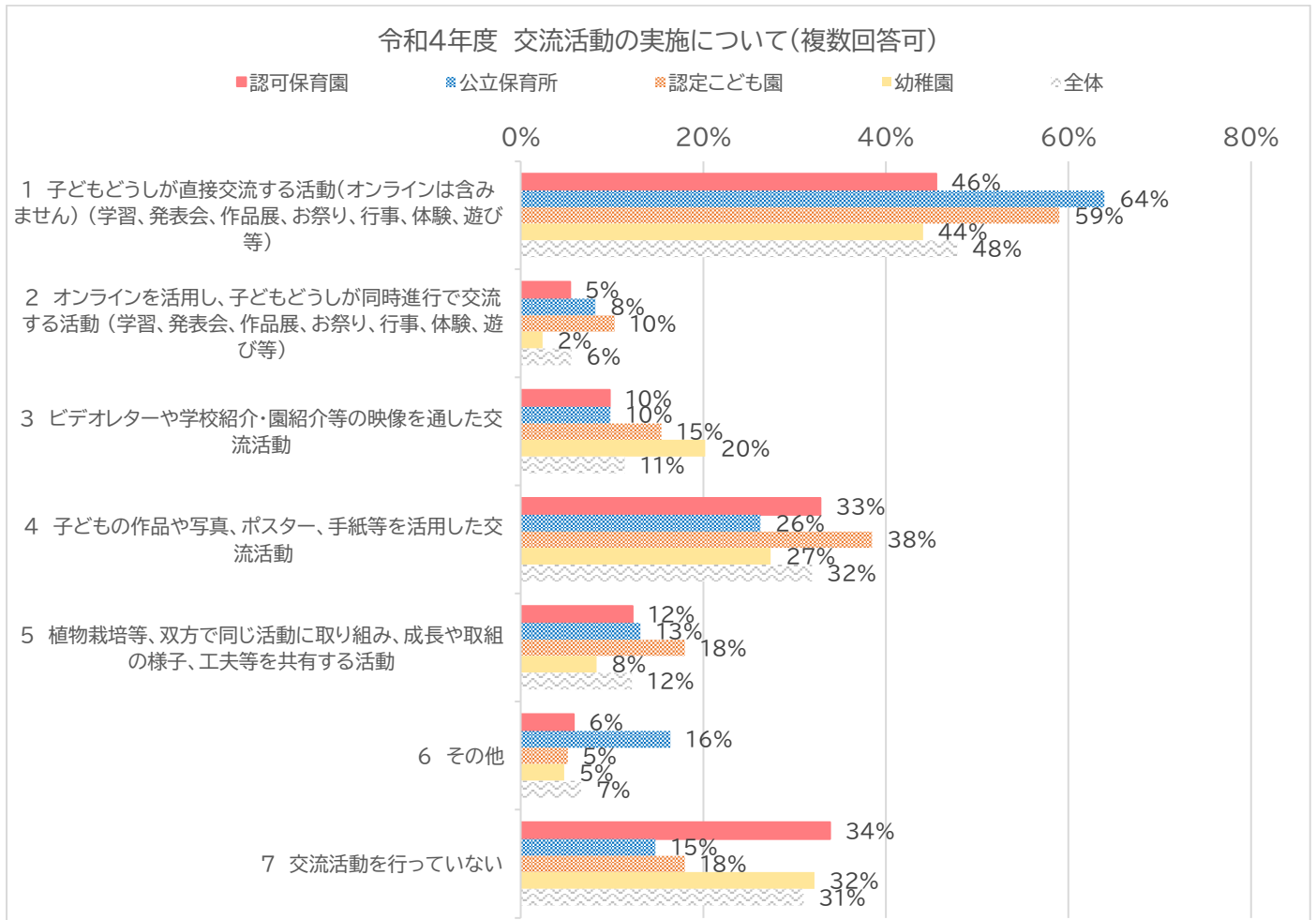


【分析】

・アプローチカリキュラムの作成について、「作成した・作成中である」の合計は76%に達し、令和3年度と比較して全体で3ポイントの上昇が見られた。公立保育所においては、昨年度と同様に100%の取り組みが確認された。この結果から、アプローチカリキュラムを作成する取組が着実に進んでいることが示唆される。

I 幼保小の交流活動に関すること

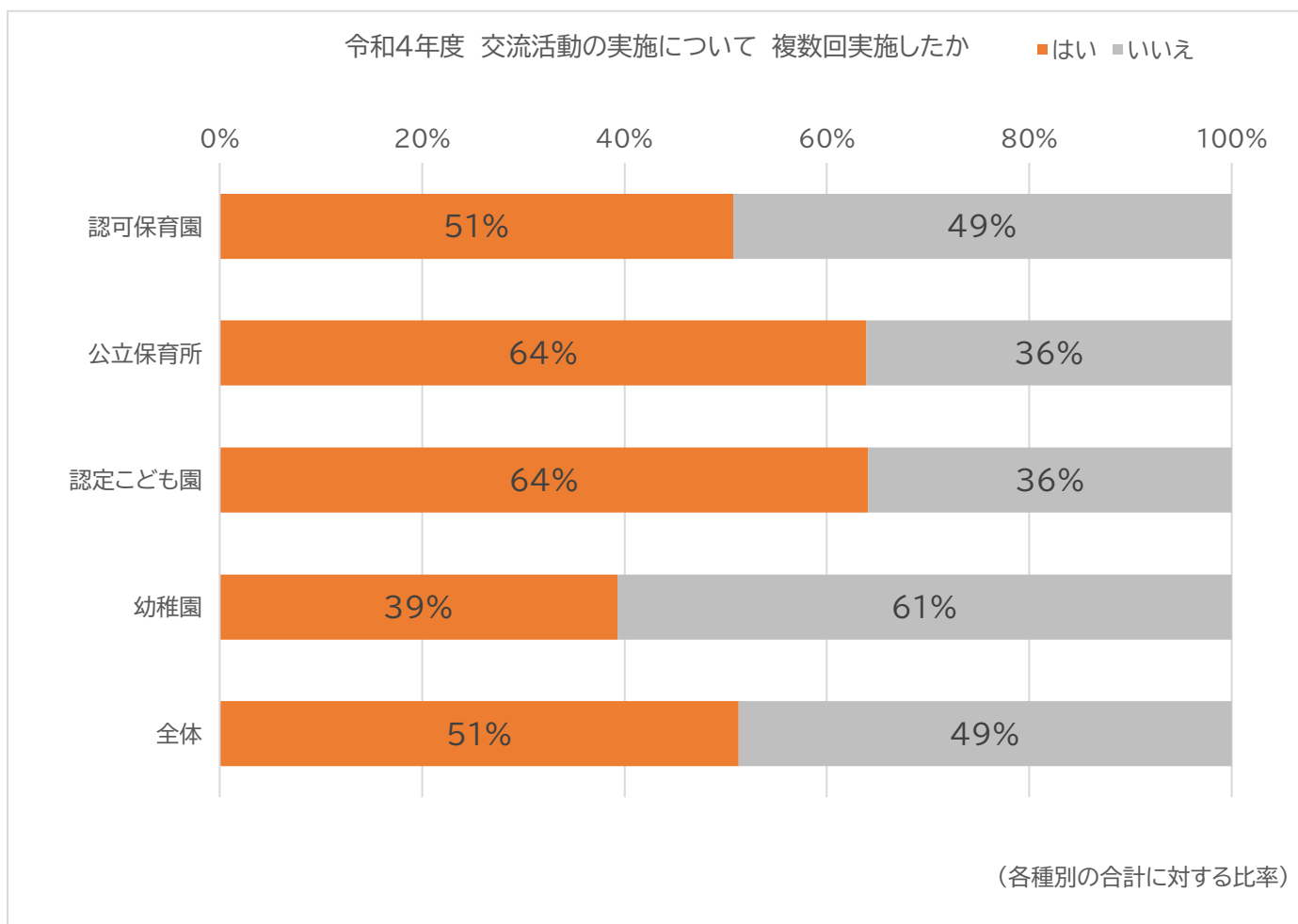
問5 近隣またはブロックや連携先の小学校と、子どもどうしが一緒に活動する「交流活動」を行いましたか。(複数回答可)



(各種別の合計に対する比率)

	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
1 子どもどうしが直接交流する活動(オンラインは含みません)(学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	219	39	23	37	318
2 オンラインを活用し、子どもどうしが同時進行で交流する活動(学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	26	5	4	2	37
3 ビデオレターや学校紹介・園紹介等の映像を通じた交流活動	47	6	6	17	76
4 子どもの作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動	158	16	15	23	212
5 植物栽培等、双方で同じ活動に取り組み、成長や取組の様子、工夫等を共有する活動	59	8	7	7	81
6 その他	28	10	2	4	44
7 交流活動を行っていない	163	9	7	27	206

上記「交流活動」は令和4年度内で「複数回」実施されましたか。(見込み含む)



	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
はい	244	39	25	33	341
いいえ	237	22	14	51	324

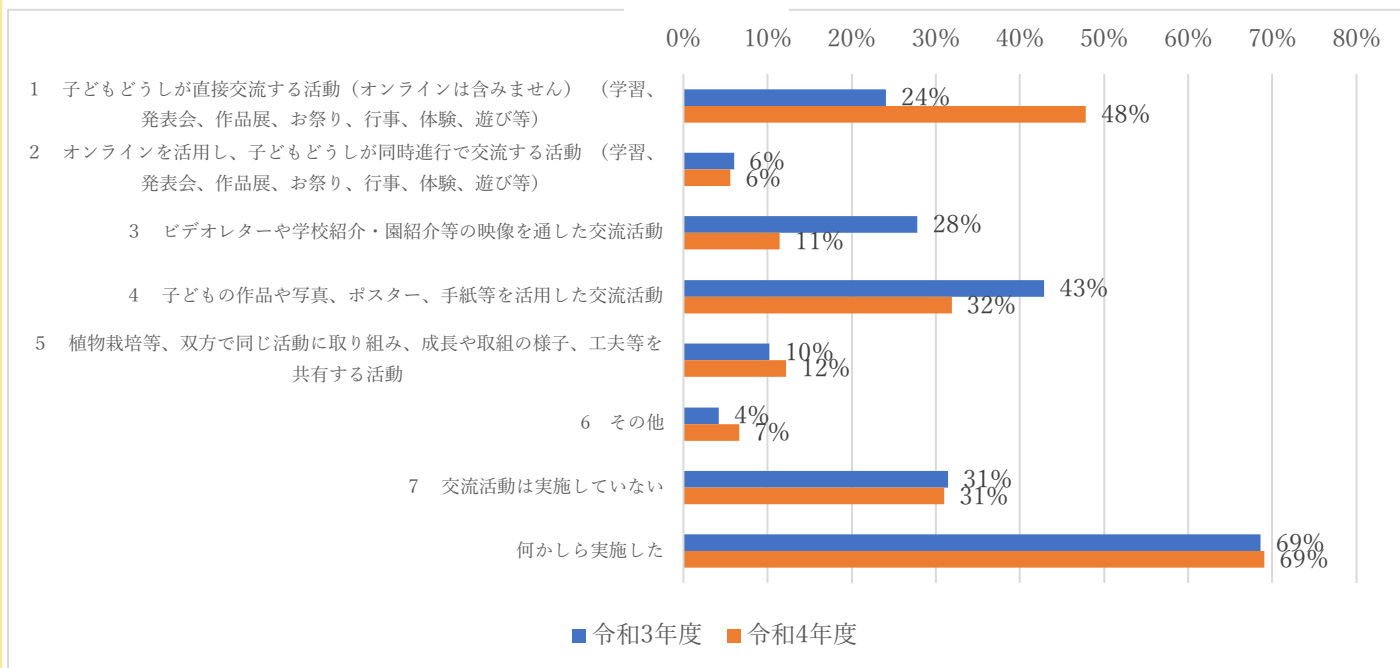
《6 その他 自由記述 抜粋》

- ・校庭に入らせてもらい、雰囲気味わうことができた。
- ・作った紙芝居を渡しに来てくれた
- ・小学校からの依頼で、難民へ寄付をするための衣類募集の取り組みに、園として協力を行った。
- ・園だよりを園児が届けて、学校の先生と話す機会を設ける。
- ・小学校の運動会練習を見学に行かせてもらった。
- ・交流はできなかったが小学校の花壇に球根を植えに行き校庭で遊ばせてもらった。進級に向けて1年生から手紙をもらった。

【分析】

・令和3年度と比較して、「1.子どもどうしが直接交流する活動」の割合が高まっている。全体では24.1%から47.8%へと23.7ポイント上昇した。この結果から、子どもたちが直接交流する機会が増えていることが示唆される。公立保育所と認定こども園では、約60%が直接交流する活動を実施しており、地域の特性や保育所の方針に応じた適切な取組が行われていることが考えられる。

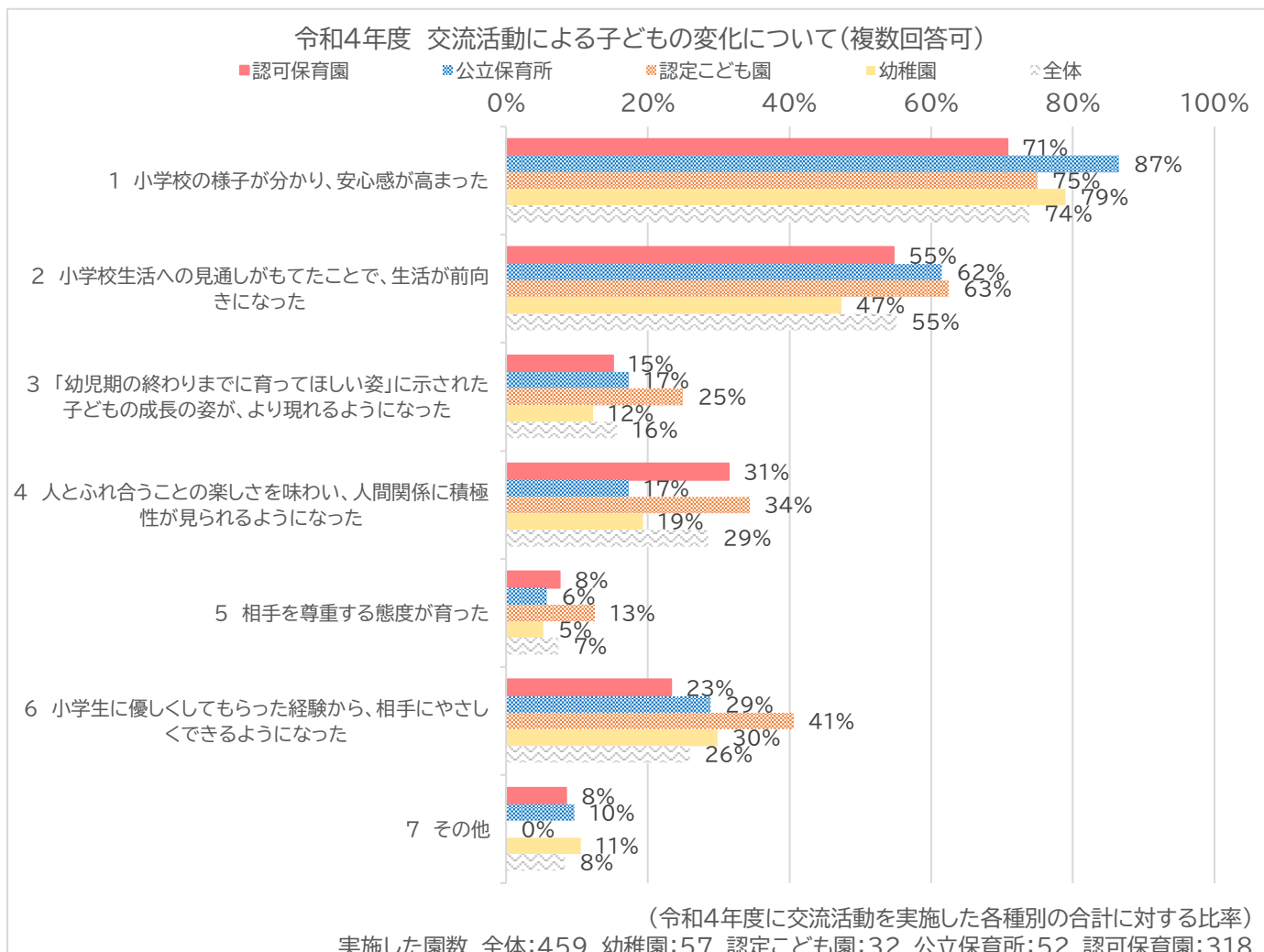
交流活動



・令和4年度に交流活動を行った園の多くは、1回だけでなく複数回交流活動を実施したと回答した。令和3年度は「1.子どもどうしが直接交流する活動」「2.オンラインを活用し、子どもどうしが同時進行で交流する活動」を実施した園の複数回実施率が高かったが、令和4年度は1~5全ての活動において複数回実施率が高い結果が得られた。

令和4年度	交流活動実施		
	1回以上 園数	複数回	
		園数	割合
1 子どもどうしが直接交流する活動(オンラインは含みません) (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	318	260	82%
2 オンラインを活用し、子どもどうしが同時進行で交流する活動 (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	37	33	89%
3 ビデオレターや学校紹介・園紹介等の映像を通じた交流活動	76	64	84%
4 子どもの作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動	212	183	86%
5 植物栽培等、双方で同じ活動に取り組み、成長や取組の様子、工夫等を共有する活動	81	73	90%
6 その他	44	26	59%

問6 近隣またはブロックや連携先の小学校との「交流活動」を行った園に質問です。
 子どもにどのような変化がありましたか。(複数回答可)



	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
1 小学校の様子が分かり、安心感が高まった	225	45	24	45	339
2 小学校生活への見通しがもてたことで、生活が前向きになった	174	32	20	27	253
3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に示された子どもの成長の姿が、より現れるようになった	48	9	8	7	72
4 人とふれ合うことの楽しさを味わい、人間関係に積極性が見られるようになった	100	9	11	11	131
5 相手を尊重する態度が育った	24	3	4	3	34
6 小学生に優しくしてもらった経験から、相手にやさしくできるようになった	74	15	13	17	119
7 その他	27	5	0	6	38

《7 その他 自由記述 抜粋》

- ・安心感もあるが不安感を見せる子どもの姿もある
- ・合唱を披露していただき、上手な歌声に驚きと憧れを抱いていました。
- ・就学に向けての興味や期待が高まった
- ・近隣ブロックでの交流により同じ小学校へいく子ども同士にとっては安心感につながったようであった。

【分析】

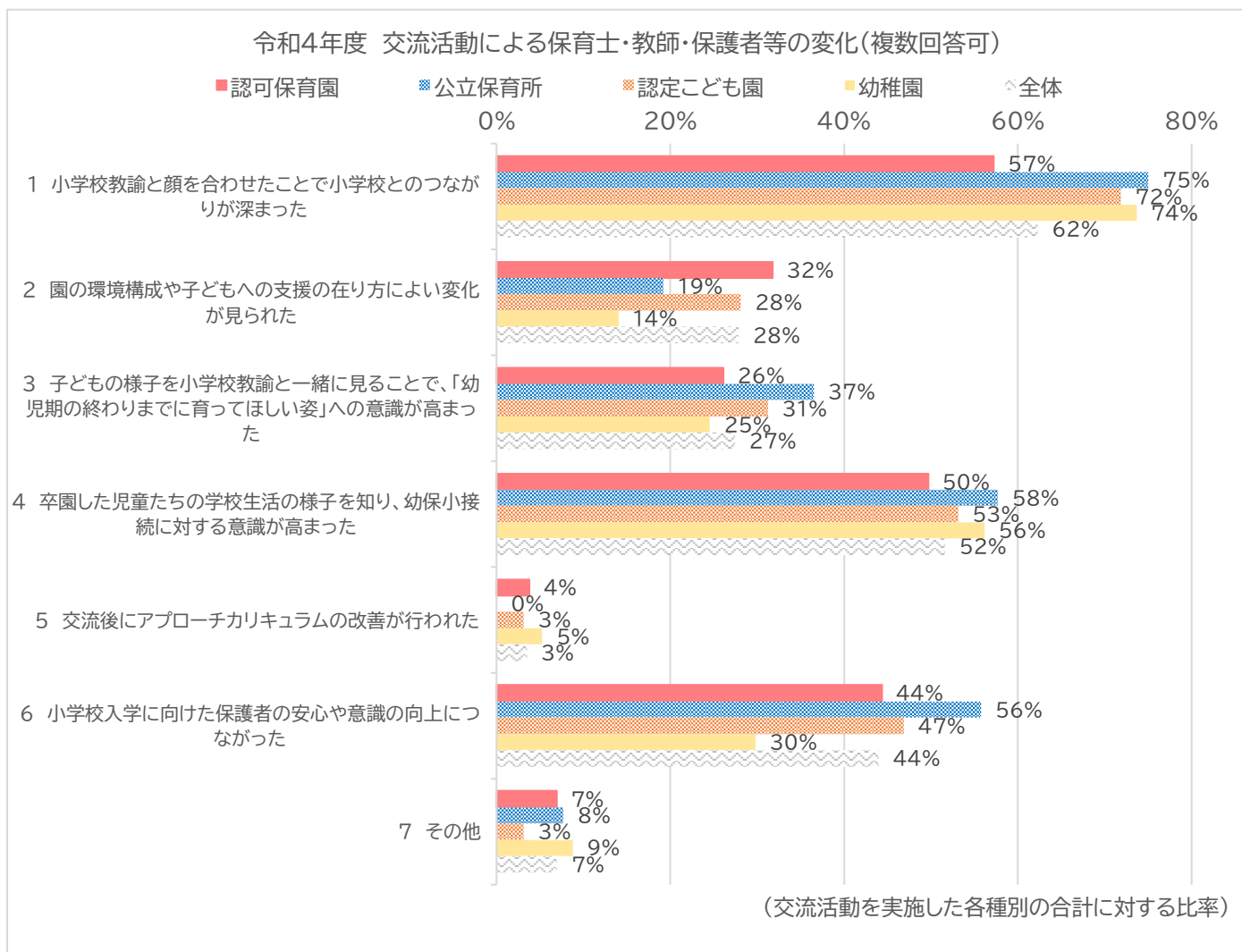
・交流活動による子どもの変化として、「1.小学校の様子が分かり、安心感が高まった」が全体で74%と最も高い割合を示している。公立保育所では87%、幼稚園では79%となっている。

・一方で、「5.相手を尊重する態度が育った」は全体で7%と最も低い割合であることが分かった。

・「1.子どもどうしが直接交流する活動」と「3.ビデオレターや学校紹介・園紹介等の映像を通じた交流活動」または「4.子どもの作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動」を行った147園のうち、80%（117園）が「1.小学校の様子が分かり、安心感が高まった」、67%（98園）が「2.小学校生活への見通しがもてたことで、生活が前向きになった」と回答した。この結果から、直接交流に加えビデオレターや手紙等を利用することで、小学校生活への理解が深まり安心感や前向きな気持ちを抱くことができると示唆される。

	対象147園の変化	
	園数	割合
1 小学校の様子が分かり、安心感が高まった	117	80%
2 小学校生活への見通しがもてたことで、生活が前向きになった	98	67%
3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に示された子どもの成長の姿が、より現れるようになった	32	22%
4 人とふれ合うことの楽しさを味わい、人間関係に積極性が見られるようになった	63	43%
5 相手を尊重する態度が育った	16	11%
6 小学生に優しくしてもらった経験から、相手にやさしくできるようになった	53	36%

問7 保育士・教師・保護者等にどのような変化がありましたか。(複数回答可)



	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
1 小学校教諭と顔を合わせたことで小学校とのつながりが深まった	182	39	23	42	286
2 園の環境構成や子どもへの支援の在り方により変化が見られた	101	10	9	8	128
3 子どもの様子を小学校教諭と一緒に見ることで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への意識が高まった	83	19	10	14	126
4 卒園した児童たちの学校生活の様子を知り、幼保小接続に対する意識が高まった	158	30	17	32	237
5 交流後にアプローチカリキュラムの改善が行われた	12	0	1	3	16
6 小学校入学に向けた保護者の安心や意識の向上につながった	141	29	15	17	202
7 その他	22	4	1	5	32

《7 その他 自由記述 抜粋》

- ・コロナ禍で、ほとんど交流がなく、変化の実感はない
- ・保育士にとっても子どもの安心感が伝わり良い交流であった。

・話し合いなどの場には参加しています。そこでは色々情報収集できているようです。

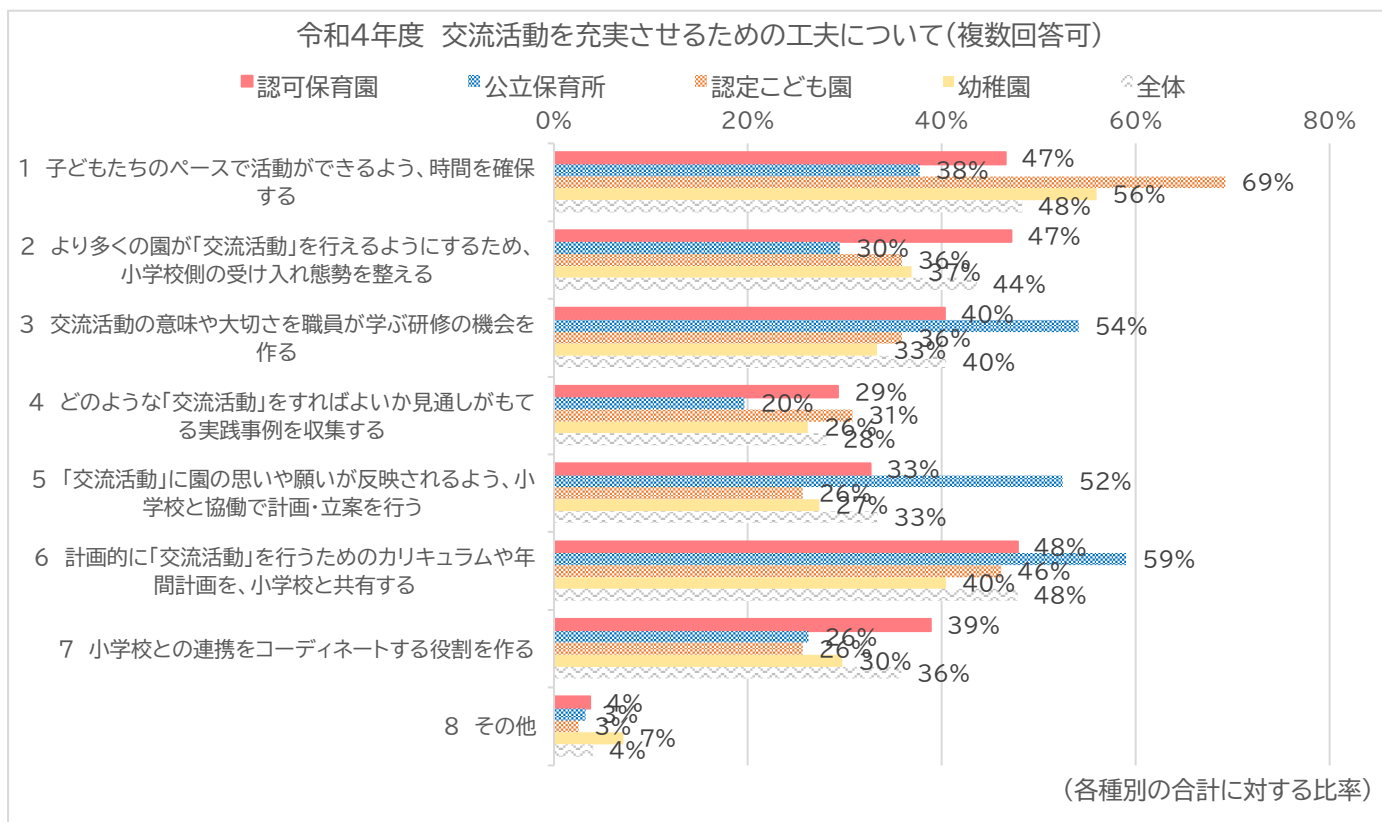
【分析】

・交流活動による保育士・教師・保護者等の変化において、「1.小学校教諭と顔を合わせたことで小学校とのつながりが深まった」が全体で62%と最も高い割合を示し、次いで「4.卒園した児童たちの学校生活の様子を知り、幼保小接続に対する意識が高まった」が52%であった。また、「1.小学校教諭と顔を合わせたことで小学校とのつながりが深まった」については、公立保育所で75%、幼稚園で74%となっている。

・「1.子どもどうしが直接交流する活動」と「3.ビデオレターや学校紹介・園紹介等の映像を通じた交流活動」または「4.子どもの作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動」を行った園147校のうち、78%（114園）が「1.小学校の様子が分かり、安心感が高まった」、68%（100園）が「4.卒園した児童たちの学校生活の様子を知り、幼保小接続に対する意識が高まった」と回答した。この結果から、直接交流に加えビデオレターや手紙等を利用することで、幼保小接続に対する意識向上や小学校とのつながりを深めることができる可能性が高い。

	対象147園の変化	
	園数	割合
1 小学校教諭と顔を合わせたことで小学校とのつながりが深まった	114	78%
2 園の環境構成や子どもへの支援の在り方により変化が見られた	55	37%
3 子どもの様子を小学校教諭と一緒に見ることで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への意識が高まった	52	35%
4 卒園した児童たちの学校生活の様子を知り、幼保小接続に対する意識が高まった	100	68%
5 交流後にアプローチカリキュラムの改善が行われた	10	7%
6 小学校入学に向けた保護者の安心や意識の向上につながった	75	51%

問8 「交流活動」をより充実させるためには、どのような工夫が必要と考えますか。(複数回答可)



	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
1 子どもたちのペースで活動ができるよう、時間を確保する	224	23	27	47	321
2 より多くの園が「交流活動」を行えるようにするため、小学校側の受け入れ態勢を整える	227	18	14	31	290
3 交流活動の意味や大切さを職員が学ぶ研修の機会を作る	194	33	14	28	269
4 どのような「交流活動」をすればよいか見通しがもてる実践事例を収集する	141	12	12	22	187
5 「交流活動」に園の思いや願いが反映されるよう、小学校と協働で計画・立案を行う	157	32	10	23	222
6 計画的に「交流活動」を行うためのカリキュラムや年間計画を、小学校と共有する	230	36	18	34	318
7 小学校との連携をコーディネートする役割を作る	187	16	10	25	238
8 その他	18	2	1	6	27

≪8 その他 自由記述 抜粋≫

- ・新型コロナウイルス感染症の対策をしながらの交流を考えていく。
- ・小学校の先生方に保育園や幼稚園での5歳児の生活を知ってもらい、児童との関わり、活動に取り入れてほしい。
- ・該当する小学校への交流希望する保育園数がとても多く、深いかかわりは実施できかねる様です。そこを改善してほしいです。
- ・ICTの活用

【分析】

・交流活動をより充実させるための工夫として、全体で約半数が「1.子どもたちのペースで活動ができるよう、時間を確保する」および「6.計画的に「交流活動」を行うためのカリキュラムや年間計画を、小学校と共有する」と答えていた。「1.子どもたちのペースで活動ができるよう、時間を確保する」については、認定こども園で約70%、「6.計画的に「交流活動」を行うためのカリキュラムや年間計画を、小学校と共有する」については、公立保育所で約60%であった。

・「8.その他」の回答からは、コロナ禍における工夫を挙げている園が複数存在し、ICTの活用に言及した回答もあった。

・何らかの交流活動を実施したと回答した園では、「1.子どもたちのペースで活動ができるよう、時間を確保する」と回答した割合が最も高い(56%)。

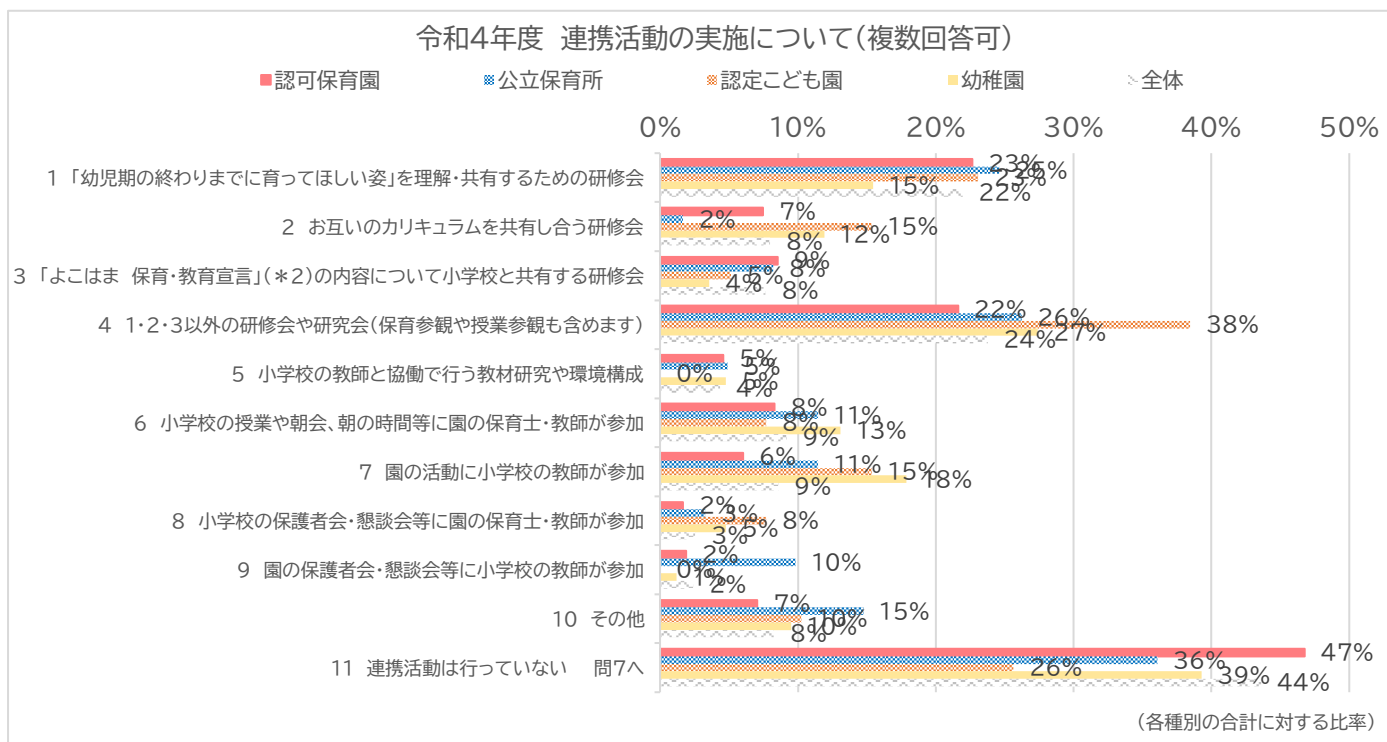
・一方、交流活動を実施していないと回答した園では、「2.より多くの園が「交流活動」を行えるようにするため、小学校側の受け入れ態勢を整える」、「6.小学校と共有するための計画的なカリキュラムや年間計画を作成する」と回答した割合が最も高い(44%)。このことから、小学校の受け入れ態勢や共有体制に課題があり、交流活動を実施できていない可能性が示唆される。

・何らかの交流活動を実施したと回答した園と、実施していないと回答した園を比較した集計結果は、以下の通りである。

	何らかの交流活動した園		交流活動していない園	
	459園		206園	
	園数	割合	園数	割合
① 子どもたちのペースで活動ができるよう、時間を確保する	255	56%	66	32%
②より多くの園が「交流活動」を行えるようにするため、小学校側の受け入れ態勢を整える	199	43%	91	44%
③交流活動の意味や大切さを職員が学ぶ研修の機会を作る	204	44%	65	32%
④どのような「交流活動」をすればよいか見通しがもてる実践事例を収集する	134	29%	53	26%
⑤「交流活動」に園の思いや願いが反映されるよう、小学校と協働で計画・立案を行う	166	36%	56	27%
⑥計画的に「交流活動」を行うためのカリキュラムや年間計画を、小学校と共有する	228	50%	90	44%
⑦小学校との連携をコーディネートする役割を作る	150	33%	88	43%

II 幼保小の連携活動に関すること

問9 近隣またはブロックや連携先の小学校と協働し、大人どうしが一緒に活動する「連携活動」を行いましたか
(複数回答可) オンラインでの実施も含みます

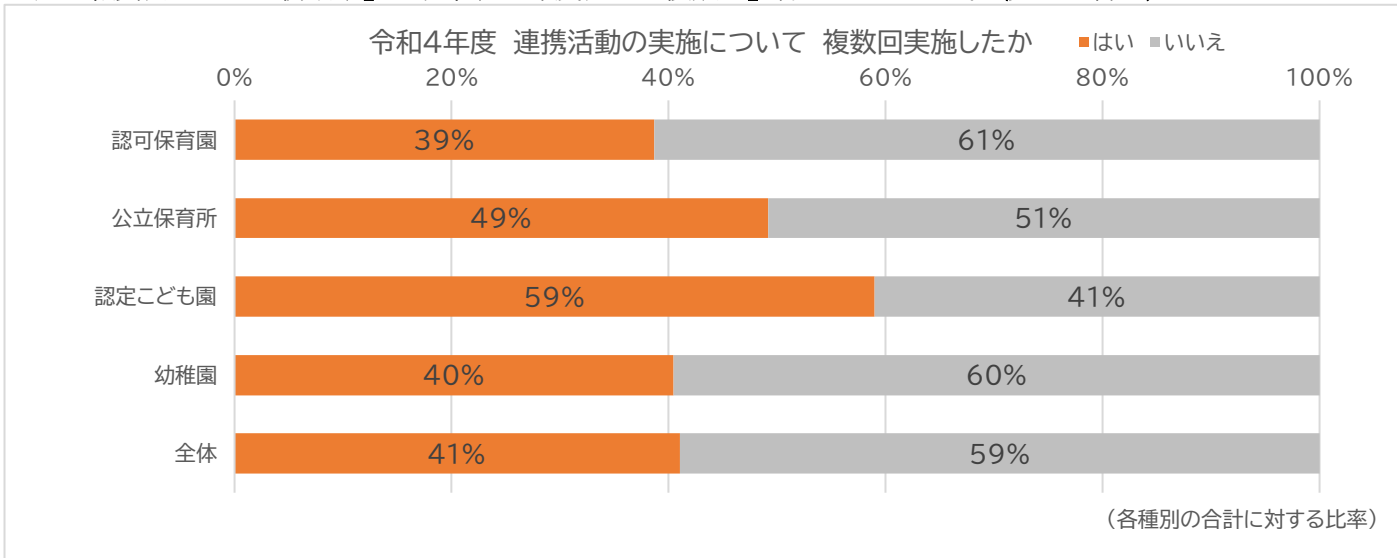


	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
1 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会	109	15	9	13	146
2 お互いのカリキュラムを共有し合う研修会	36	1	6	10	53
3 「よこはま 保育・教育宣言」(*2)の内容について小学校と共有する研修会	41	5	2	3	51
4 1・2・3以外の研修会や研究会(保育参観や授業参観も含めます)	104	16	15	23	158
5 小学校の教師と協働で行う教材研究や環境構成	22	3	0	4	29
6 小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育士・教師が参加	40	7	3	11	61
7 園の活動に小学校の教師が参加	29	7	6	15	57
8 小学校の保護者会・懇談会等に園の保育士・教師が参加	8	2	3	4	17
9 園の保護者会・懇談会等に小学校の教師が参加	9	6	0	1	16
10 その他	34	9	4	8	55
11 連携活動は行っていない 問7へ	225	22	10	33	290

《10 その他 自由記述 抜粋》

- ・保護者からの質問について小学校の先生に回答をもらい、懇談会でお話しした。
- ・接続期カリキュラム推進地区の「公開保育」と研修会を実施
- ・ズームでお互いの様子を共有し、どのような形で交流会を持ったらよいか話し合った。

上記の職員同士の「連携活動」は、令和4年度内に「複数回」行われましたか。(見込み含む)



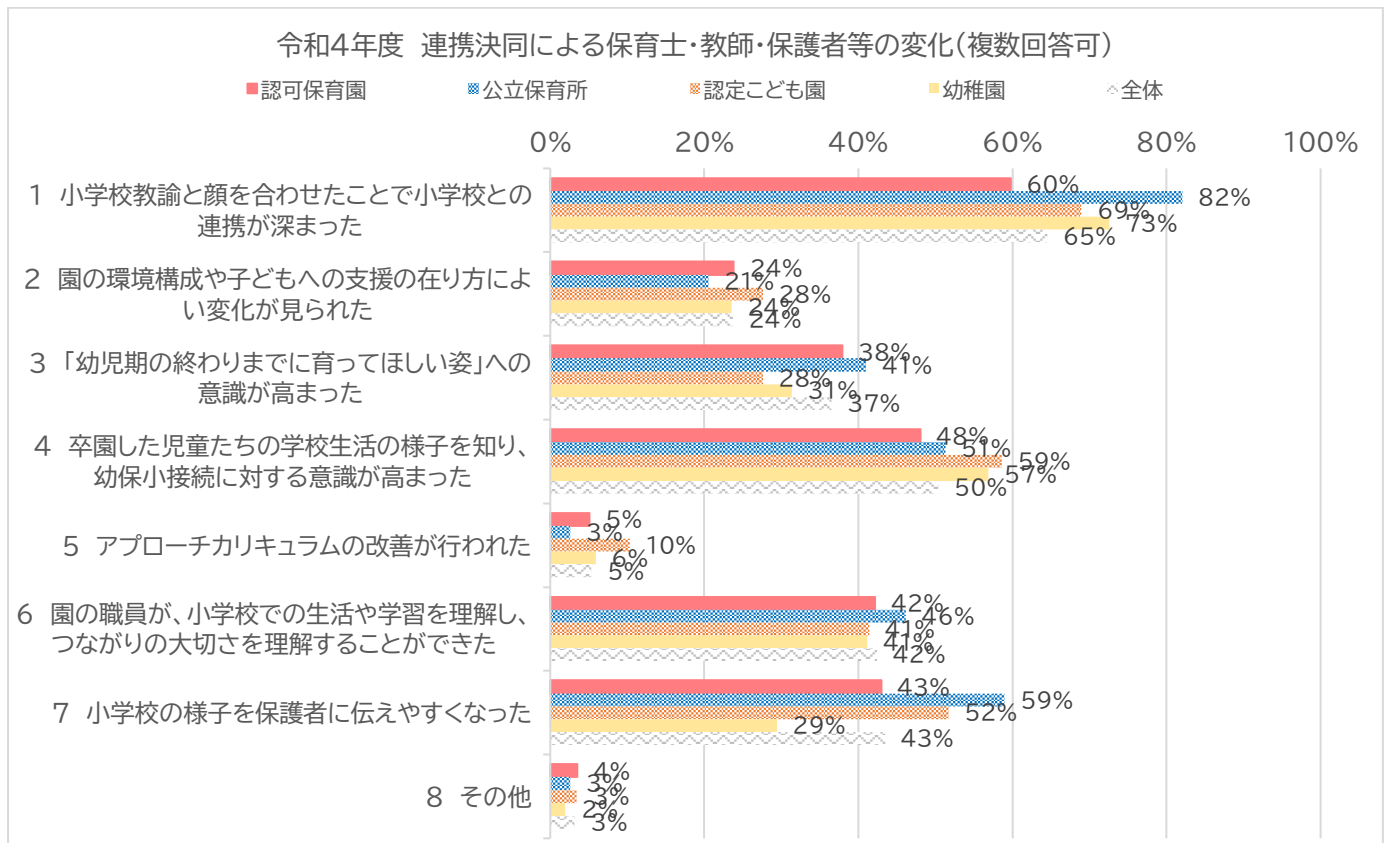
	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
はい	186	30	23	34	273
いいえ	295	31	16	50	392

【分析】

- ・連携活動を行っていない割合は全体で44%であり、認可保育園では47%と最も高い水準であった。
- ・令和4年度に職員間の連携活動を行った園の多くが複数回実施したと回答した。このことから、連携活動を行っている園は単発的な活動にとどまらない積極的な姿勢であることが示唆される。

令和4年度	連携活動実施		
	1回以上 園数	複数回	
		園数	割合
1 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会	146	121	83%
2 お互いのカリキュラムを共有し合う研修会	53	45	85%
3 「よこはま 保育・教育宣言」(*2)の内容について小学校と共有する研修会	51	42	82%
4 1・2・3 以外の研修会や研究会(保育参観や授業参観も含めます)	158	126	80%
5 小学校の教師と協働で行う教材研究や環境構成	29	24	83%
6 小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育士・教師が参加	61	44	72%
7 園の活動に小学校の教師が参加	57	43	75%
8 小学校の保護者会・懇談会等に園の保育士・教師が参加	17	14	82%
9 園の保護者会・懇談会等に小学校の教師が参加	16	14	88%
10 その他	55	40	73%

問10 近隣またはブロックや連携先の小学校と協働し、大人どうしと一緒に活動する「連携活動」を行った園に質問です。「連携活動」を行い、保育士・教師・保護者等にどのような変化がありましたか。(複数回答可)



(連携活動を実施した各種別の合計に対する比率)
実施した園数 全体:375 幼稚園:51 認定こども園:29 公立保育所:39 認可保育園:256

	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
1 小学校教諭と顔を合わせたことで小学校との連携が深まった	153	32	20	37	242
2 園の環境構成や子どもへの支援の在り方による変化が見られた	61	8	8	12	89
3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への意識が高まった	97	16	8	16	137
4 卒園した児童たちの学校生活の様子を知り、幼保小接続に対する意識が高まった	123	20	17	29	189
5 アプローチカリキュラムの改善が行われた	13	1	3	3	20
6 園の職員が、小学校での生活や学習を理解し、つながりの大切さを理解することができた	108	18	12	21	159
7 小学校の様子を保護者に伝えやすくなった	110	23	15	15	163
8 その他	9	1	1	1	12

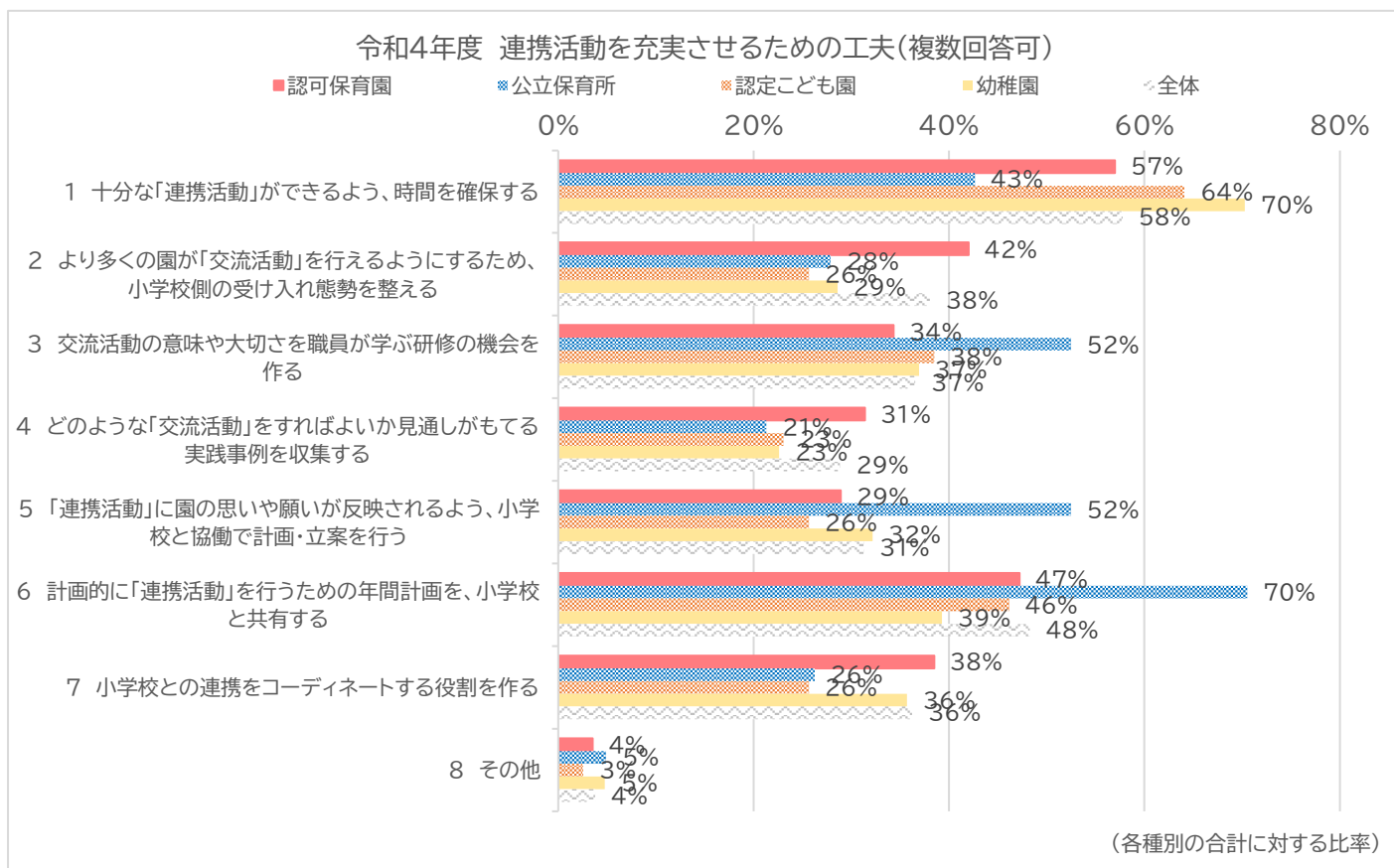
《8 その他 自由記述 抜粋》

- ・同じ講師から、同じ時間を共有してお話を聞く機会は、子どもに向ける視点の共有につながった。
- ・一度だけだったので、複数回行えば変化が出てくると思う。
- ・園と小学校との連携の場があることを保護者も実感された
- ・あまり変化はないので今後違うアプローチが必要と思われる。

【分析】

- ・「1.小学校教諭と顔を合わせたことで小学校との連携が深まった」が全体で65%と最も高い割合を示していた。特に、公立保育所では82%、幼稚園では73%となっている。
- ・全体で約半数が「4.卒園した児童たちの学校生活の様子を知り、幼保小接続に対する意識が高まった」と回答した。
- ・一方、「5.アプローチカリキュラムの改善が行われた」は全体で5%と最も低い割合であった。

問11 「連携活動」をより充実させるためには、どのような工夫が必要と考えますか。(複数回答可)



	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
1 十分な「連携活動」ができるよう、時間を確保する	274	26	25	59	384
2 より多くの園が「交流活動」を行えるようにするため、小学校側の受け入れ態勢を整える	202	17	10	24	253
3 交流活動の意味や大切さを職員が学ぶ研修の機会を作る	165	32	15	31	243
4 どのような「交流活動」をすればよいか見通しがもてる実践事例を収集する	151	13	9	19	192
5 「連携活動」に園の思いや願いが反映されるよう、小学校と協働で計画・立案を行う	139	32	10	27	208
6 計画的に「連携活動」を行うための年間計画を、小学校と共有する	227	43	18	33	321
7 小学校との連携をコーディネートする役割を作る	185	16	10	30	241
8 その他	17	3	1	4	25

≪8 その他 自由記述 抜粋≫

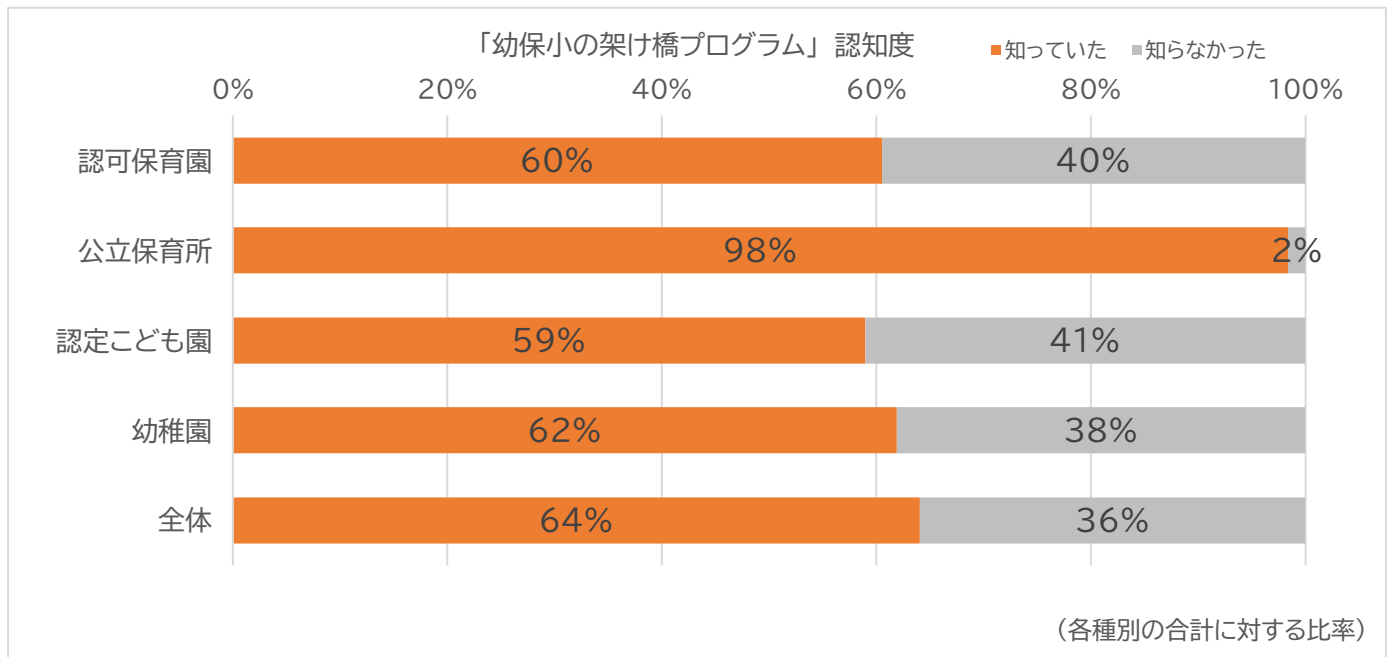
- ・保育園の数が増えたことで、連携の連絡をしても取り合ってもらえず、毎年校庭見学及び避難訓練しかできていない。より多くの園の受入をお願いしたいと思っています。
- ・年度初めに流に参加する近隣園と学校の職員の打ち合わせを行う
- ・就学検診時に保護者への具体的な指導などをしっかり行って欲しい。就学までに時間が短く保護者は対応せずに入学を迎える事が多いため、早め早めの発信が必要。その上での連携が有るのでは無いでしょうか？

【分析】

- ・「1.十分な「連携活動」ができるよう、時間を確保する」が全体で58%となり、特に幼稚園では70%と高い割合を示していた。また、「6.計画的に「連携活動」を行うための年間計画を、小学校と共有する」が全体で48%であり、特に公立保育所では70%と高い水準であった。
- ・連携活動における工夫について、何らかの連携活動を実施した園と連携活動をしていない園の双方において、「1.十分な「連携活動」ができるよう、時間を確保する」「6.計画的に「連携活動」を行うための年間計画を、小学校と共有する」が高い割合を示している。このことから、園は連携活動の実施において1や6の工夫を重要視していることが示唆される。

	何らかの連携活動した園		連携活動していない園	
	375園		290園	
	園数	割合	園数	割合
1 十分な「連携活動」ができるよう、時間を確保する	245	65%	139	48%
2 より多くの園が「交流活動」を行えるようにするため、小学校側の受け入れ態勢を整える	155	41%	98	34%
3 交流活動の意味や大切さを職員が学ぶ研修の機会を作る	149	40%	94	32%
4 どのような「交流活動」をすればよいか見通しがもてる実践事例を収集する	115	31%	77	27%
5 「連携活動」に園の思いや願いが反映されるよう、小学校と協働で計画・立案を行う	127	34%	81	28%
6 計画的に「連携活動」を行うための年間計画を、小学校と共有する	186	50%	135	47%
7 小学校との連携をコーディネートする役割を作る	127	34%	114	39%

問12 今年度から「幼保小の架け橋プログラム」が始まったことを知っていましたか



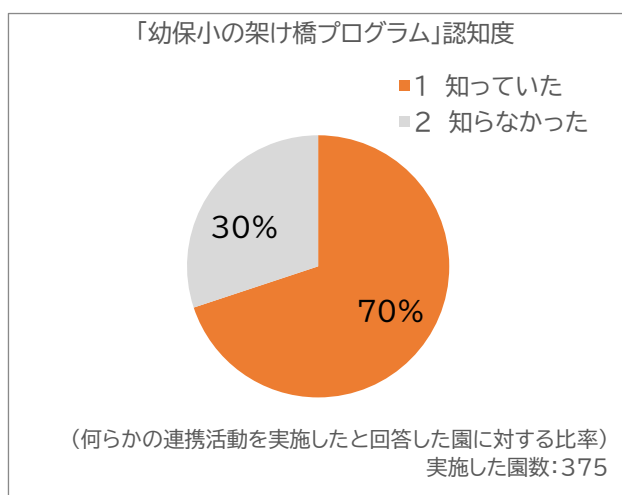
	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
知っていた	291	60	23	52	426
知らなかった	190	1	16	32	239

【分析】

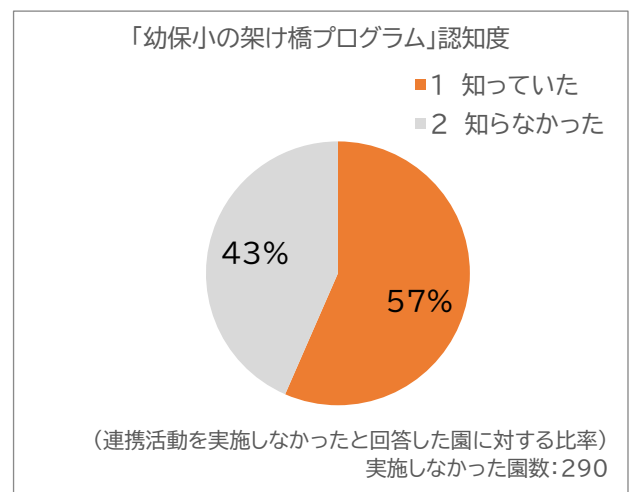
・「幼保小の架け橋プログラム」の認知度は、全体で64%となっており、特に公立保育所では98%と高い水準であることが分かった。

・何らかの連携活動を実施した園の70%が架け橋プログラムを認知している一方、連携活動を実施しなかった園の認知度は57%であった。このことから、連携活動の実施が架け橋プログラムの認知度向上に効果があることが示唆される。

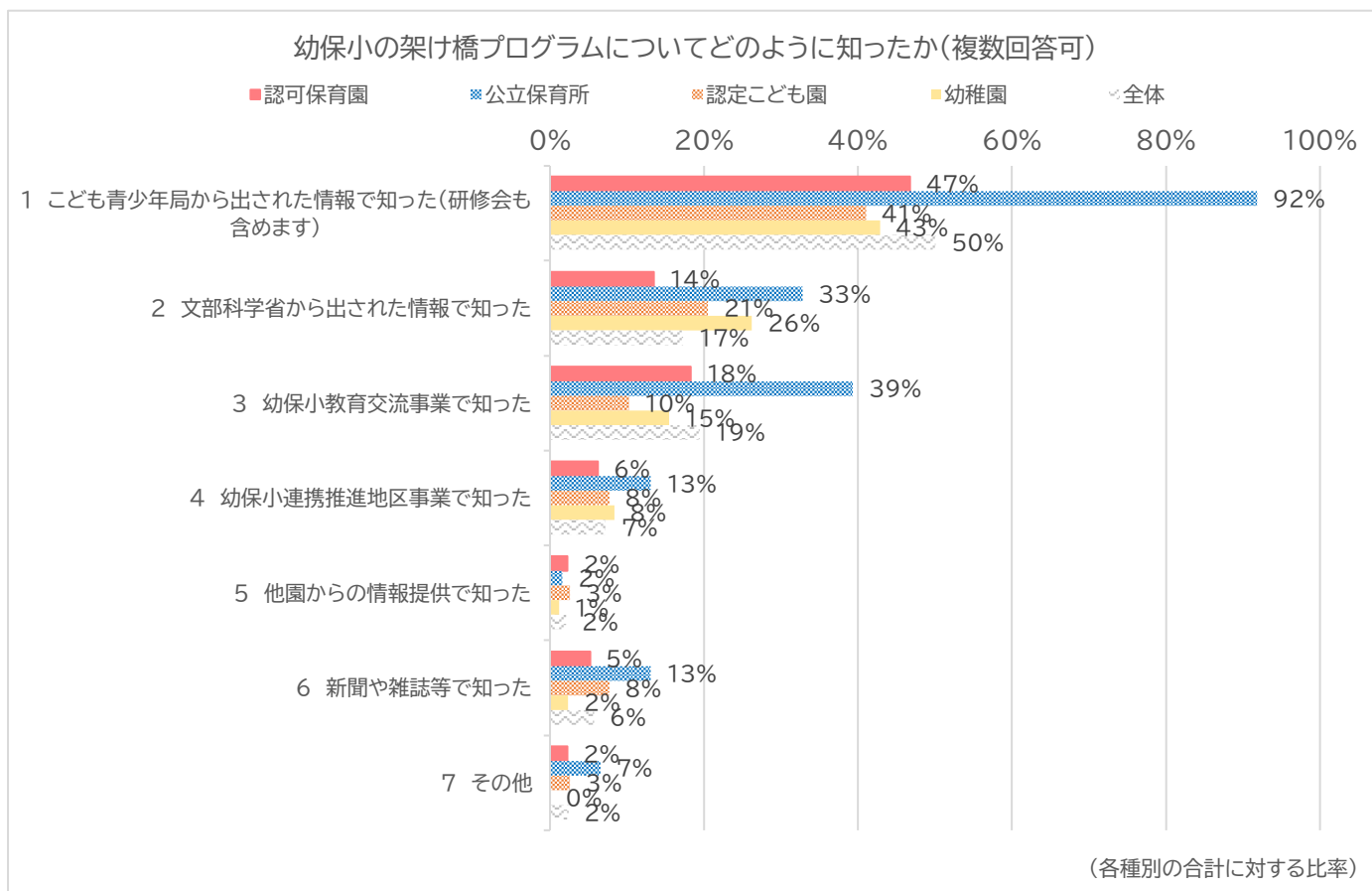
〔職員間で何らかの連携活動を実施した園〕



〔連携活動を実施しなかった園〕



問13 「幼保小の架け橋プログラム」についてどのように知りましたか（複数回答可）



	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
1 子ども青少年局から出された情報で知った(研修会も含めます)	225	56	16	36	333
2 文部科学省から出された情報で知った	65	20	8	22	115
3 幼保小教育交流事業で知った	88	24	4	13	129
4 幼保小連携推進地区事業で知った	30	8	3	7	48
5 他園からの情報提供で知った	11	1	1	1	14
6 新聞や雑誌等で知った	25	8	3	2	38
7 その他	11	4	1	0	16

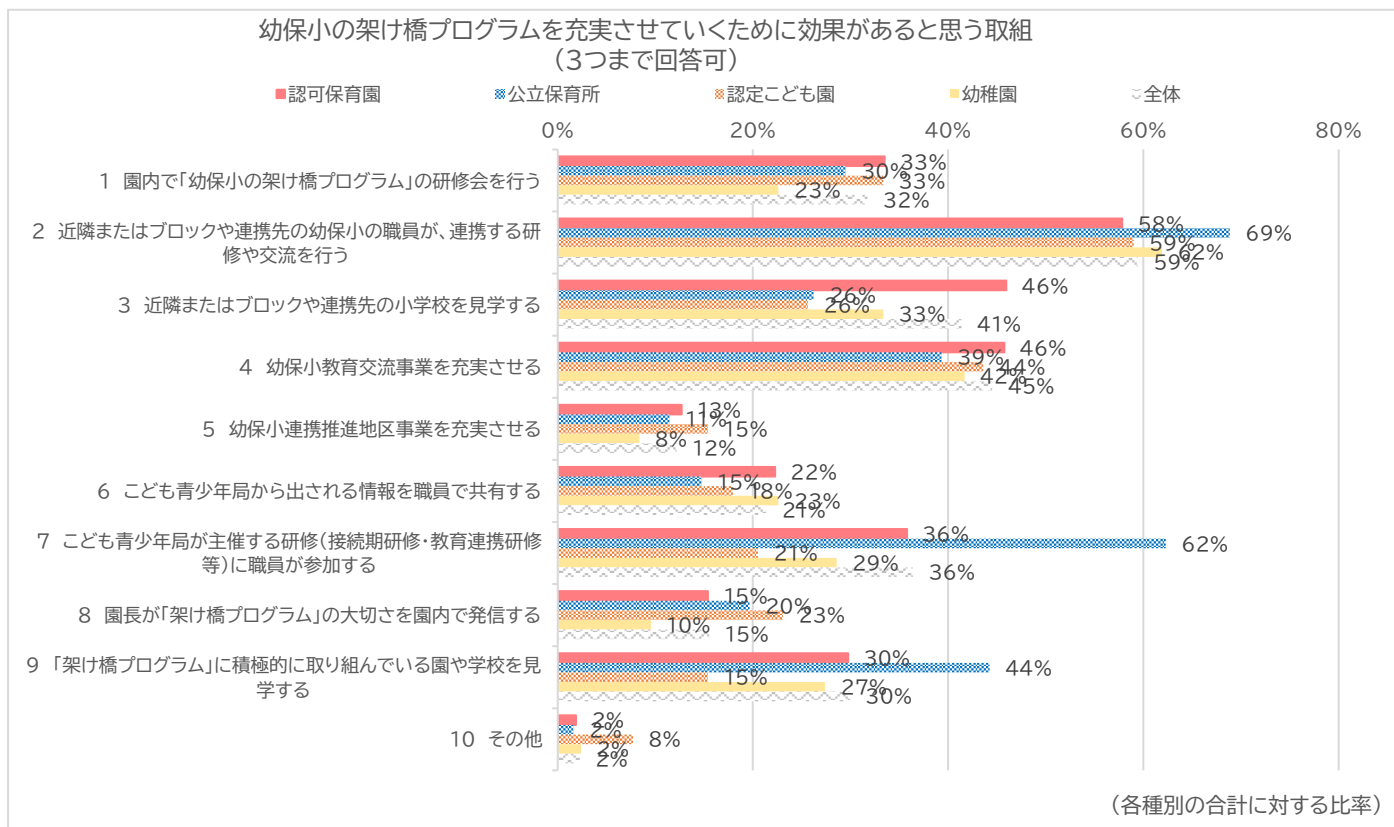
≪7 その他 自由記述 抜粋≫

- ・幼保小関係等の研修の中で知った。
- ・園長より、職員会議で職員に向けて説明があった。研修の中で学ぶ機会があり、研修報告にて他の職員と共有した。
- ・保育士のキャリアアップ研修障害児分野で学習内容として含まれていた為
- ・参加した研修にて話があった

【分析】

- ・架け橋プログラムを知ったきっかけについて、全体の半数が「1.子ども青少年局から出された情報で知った(研修会も含める)」と回答している。特に、公立保育所では92%と高い割合が示されている。
- ・一方で、子ども青少年局以外からの情報発信力は弱いという課題がある。

問14 「幼保小の架け橋プログラム」を充実させていくために効果があると思う取組は何ですか。
(3つまで選んでください)



	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
1 園内で「幼保小の架け橋プログラム」の研修会を行う	161	18	13	19	211
2 近隣またはブロックや連携先の幼保小の職員が、連携する研修や交流を行う	278	42	23	52	395
3 近隣またはブロックや連携先の小学校を見学する	221	16	10	28	275
4 幼保小教育交流事業を充実させる	220	24	17	35	296
5 幼保小連携推進地区事業を充実させる	61	7	6	7	81
6 こども青少年局から出される情報を職員で共有する	107	9	7	19	142
7 こども青少年局が主催する研修(接続期研修・教育連携研修等)に職員が参加する	172	38	8	24	242
8 園長が「架け橋プログラム」の大切さを園内で発信する	74	12	9	8	103
9 「架け橋プログラム」に積極的に取り組んでいる園や学校を見学する	143	27	6	23	199
10 その他	9	1	3	2	15

《10 その他 自由記述 抜粋》

- ・小学校ともう少し話が出来るとよいと思う。
- ・コロナ禍でも活動でもできる工夫と時間をつくる。取り組みができている情報を探して取り組んでみる。
- ・幼保小教育交流事業もコロナを理由に活動が縮小している。オンラインの仕組みを構築すべき
- ・小学校がこの取り組みを大事に考え、近隣保育園からの見学や交流を受け入れ、意識的に交流をもとうとする事がまず必要。

【分析】

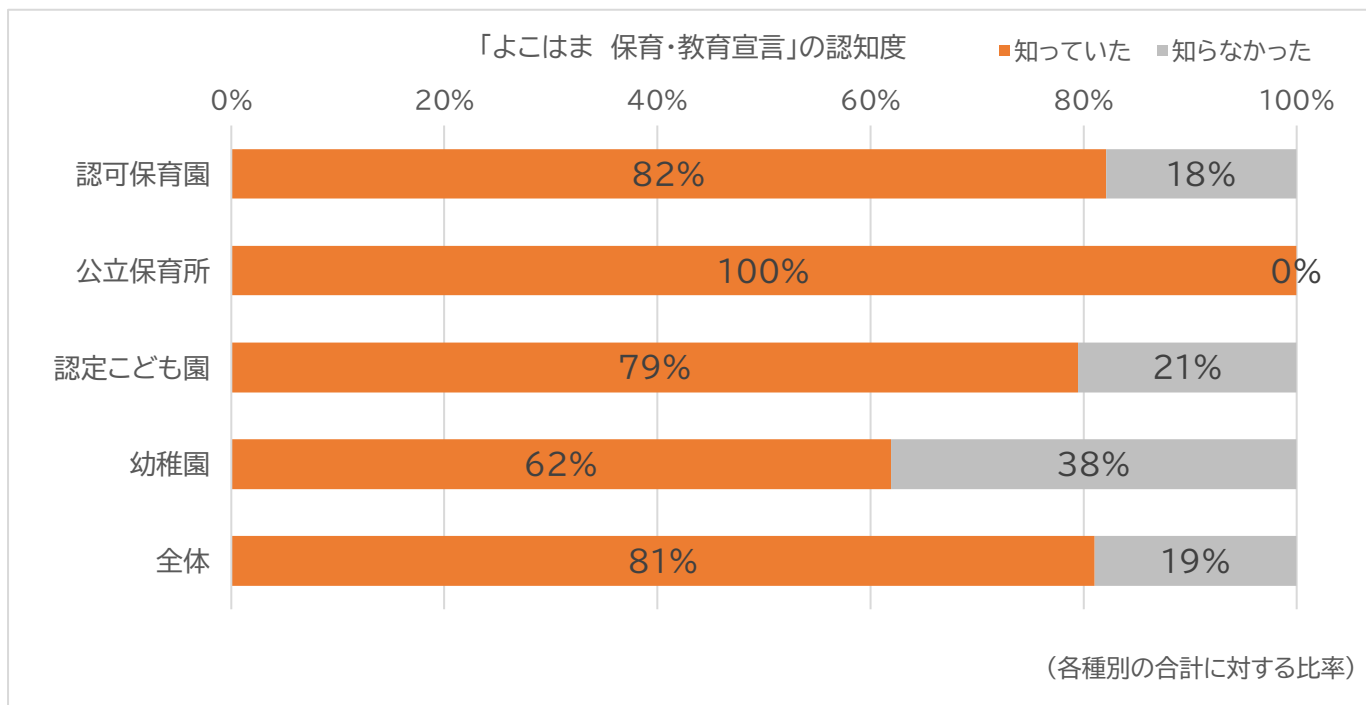
・「2.近隣またはブロックや連携先の幼保小の職員が、連携する研修や交流を行う」が全体で約 60%と最も高い割合を示している。認知度の高い公立保育所では 69%となっており、「7.こども青少年局が主催する研修（接続期研修・教育連携研修等）に職員が参加する」が 62%、「9.架け橋プログラム」に積極的に取り組んでいる園や学校を見学する」が 44%と他の種別と比較して高い割合であった。

・架け橋プログラムを知っていたかに関わらず、「2. 近隣またはブロックや連携先の幼保小の職員が、連携する研修や交流を行う」が最も多く選択されており、園が重要視していることが示唆される。

・架け橋プログラムを知っていた園の 65%が「2. 近隣またはブロックや連携先の幼保小の職員が、連携する研修や交流を行う」を選択しており、架け橋プログラム充実のために最も効果的な工夫である可能性が高い。

	知っていた		知らなかった	
	426園		239園	
	園数	割合	園数	割合
1 園内で「幼保小の架け橋プログラム」の研修会を行う	135	32%	76	32%
2 近隣またはブロックや連携先の幼保小の職員が、連携する研修や交流を行う	277	65%	118	49%
3 近隣またはブロックや連携先の小学校を見学する	176	41%	99	41%
4 幼保小教育交流事業を充実させる	200	47%	96	40%
5 幼保小連携推進地区事業を充実させる	58	14%	23	10%
6 こども青少年局から出される情報を職員で共有する	90	21%	52	22%
7 こども青少年局が主催する研修(接続期研修・教育連携研修等)に職員が参加する	166	39%	76	32%
8 園長が「架け橋プログラム」の大切さを校内で発信する	63	15%	40	17%
9 「架け橋プログラム」に積極的に取り組んでいる園や学校を見学する	133	31%	66	28%

問15 横浜市では、「よこはま☆保育・教育宣言」の具現化を通して「架け橋プログラム」の実現を目指しています。令和2年度に「よこはま☆保育・教育宣言」が出されたことを知っていましたか。



	認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
知っていた	395	61	31	52	539
知らなかった	86	0	8	32	126

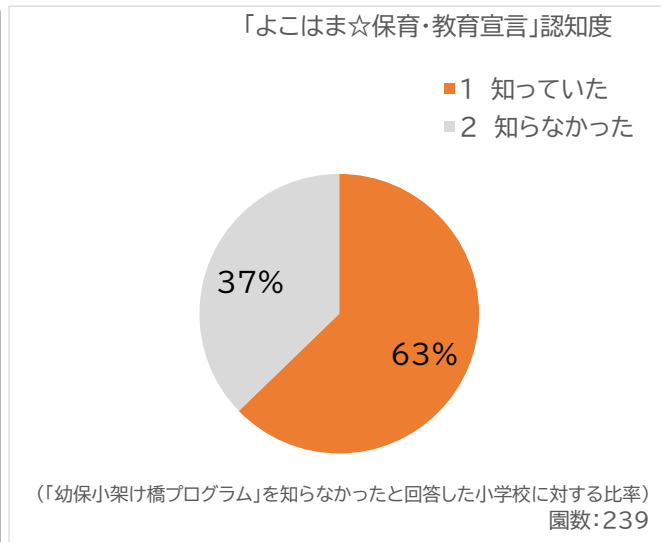
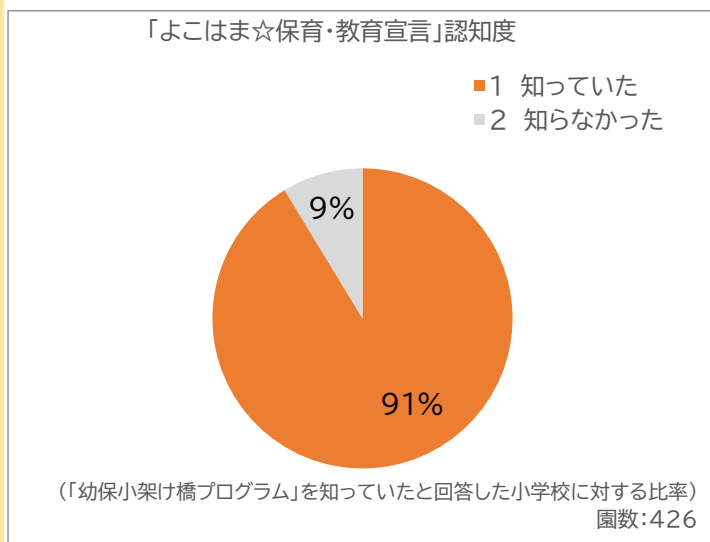
【分析】

・「よこはま☆保育・教育宣言」の認知度は全体で約 80%となっており、特に公立保育所では 100%という高い水準であることが分かった。

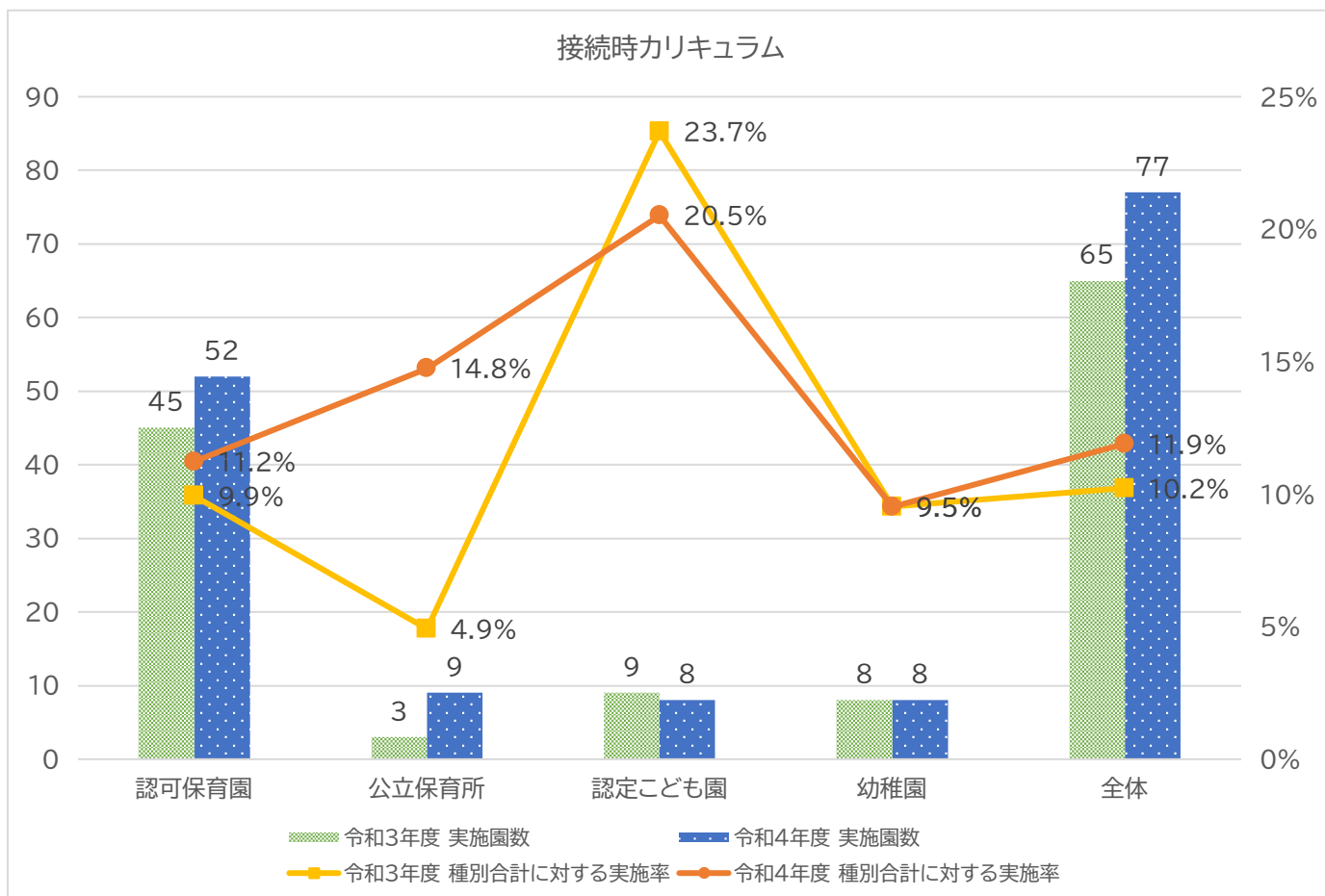
・「架け橋プログラム」を知っていた園の 91%が「よこはま☆保育・教育宣言」を認知している。「よこはま☆保育・教育宣言」を通じて高い認知度につながった可能性がある。

「架け橋プログラム」を知っていた園

「架け橋プログラム」を知らなかった園



接続時カリキュラム実施状況



		認可保育園	公立保育所	認定こども園	幼稚園	全体
令和3年度	実施園数	45	3	9	8	65
	種別合計に対する実施率	9.9%	4.9%	23.7%	9.5%	10.2%
令和4年度	実施園数	52	9	8	8	77
	種別合計に対する実施率	11.2%	14.8%	20.5%	9.5%	11.9%

【分析】

・接続時カリキュラムの実施状況は、令和3年度は全体で約10%、令和4年度は約12%となっており、低い水準であるものの、昨年度と比較して全体で1.7ポイント上昇していることが確認された。この結果から、架け橋プログラムによって園が幼保小接続に関心を持ち、実際に取り組むようになった可能性が示唆される。

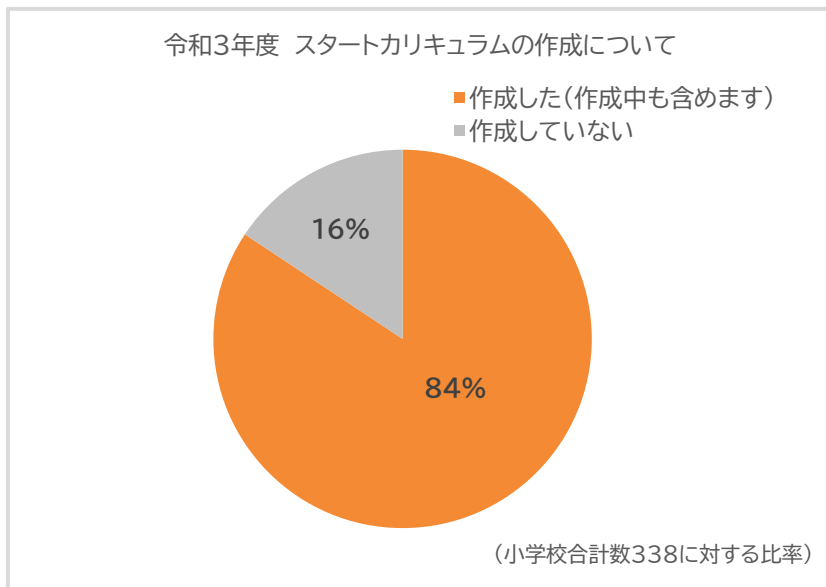
小学校編

□小学校 回答率：100% 全 338 校

I 昨年度（令和3年度）実施した取組についてお答えください。

問1 幼児期の保育・教育から小学校への円滑な接続を大切にした、入学当初のカリキュラム（スタートカリキュラム）は作成しましたか。

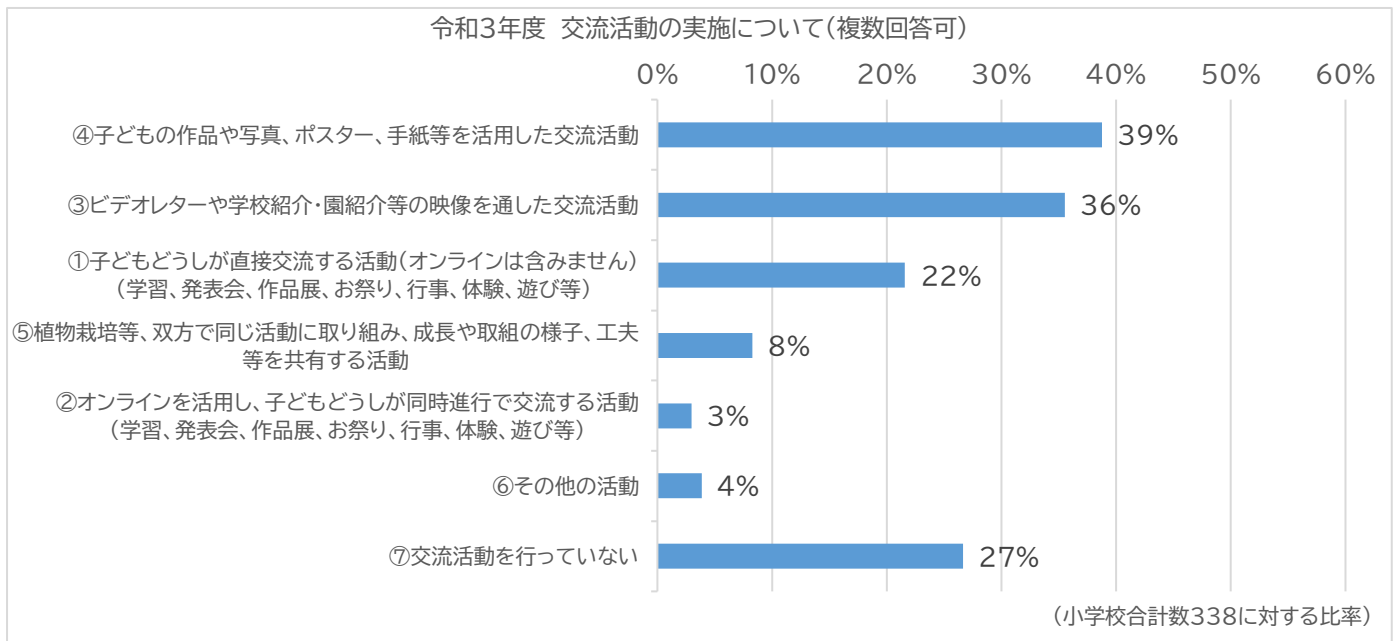
	校数
作成した（作成中も含めます）	285
作成していない	53



I 幼保小児童間の交流活動に関すること

問2 近隣またはブロックや連携先の幼稚園・保育園・認定こども園と、子どもどうしと一緒に活動する「交流活動」を行いましたか。行なったものを選択してください。(複数回答可)

活動	校数
①子どもどうしが直接交流する活動(オンラインは含みません) (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	73
②オンラインを活用し、子どもどうしが同時進行で交流する活動 (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	10
③ビデオレターや学校紹介・園紹介等の映像を通じた交流活動	120
④子どもの作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動	131
⑤植物栽培等、双方で同じ活動に取り組み、成長や取組の様子、工夫等を共有する活動	28
⑥その他の活動	13
⑦交流活動を行っていない	90



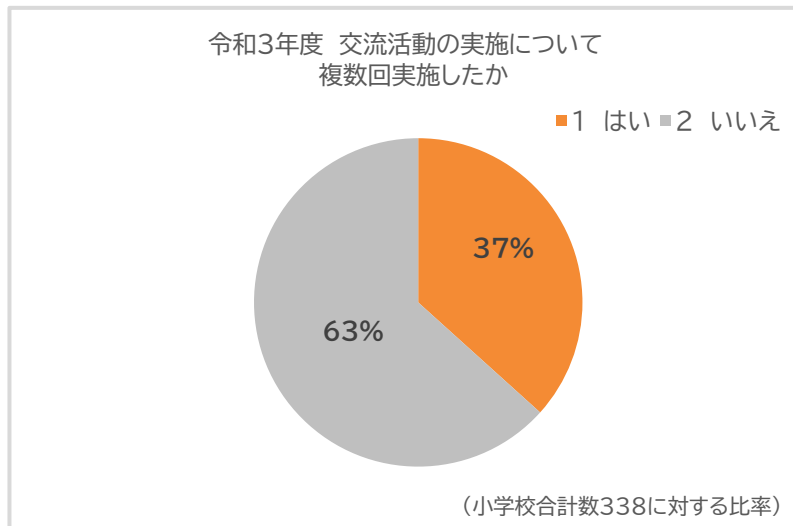
《⑥その他の活動 自由記述 抜粋》

- ・秋祭り(秋の実や葉を使って作ったゲームやおもちゃで遊ぶ活動)
- ・小学校で行っている、音楽会リハーサルの見学
- ・小学校から園に、運動会の応援横断幕を作って送る交流。会場に掲示し、園の保護者にも見ていただくことができた。3年生の総合と連動した交流。
- ・手作りのメダルを作成したプレゼントした
- ・お散歩コースに小学校をいれていただき、直接交流はしていませんが、授業参観、学校の見学をしていただきました。
- ・動画で学校紹介を作成したのを送る。
- ・生活科では、幼稚園保育園へ向けて相手意識をもち、季節の遊びを行ったが、実際の交流はコロナ禍のため中止となった。
- ・1年生が近隣の幼稚園生にアサガオの種をプレゼントしました。
- ・コロナ前は直接交流もしていましたが、コロナで直接交流ができなくなっています。

交流活動は、年間で複数回行われましたか。(同じ項目で複数回「連携活動」をした場合も含む)

※上記設問で「⑦交流活動を行っていない」を選択した場合は、「2 いいえ」を選択してください。

	校数
1 はい	124
2 いいえ	214



【分析】

・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大期間中であったことから、多くの学校では子どもたちの間での直接的な交流(①)が自粛されたと考えられる。その一方で、写真・ポスター・手紙・ビデオレターなどの物を媒体とした交流活動(③④)が多くの学校で実施されたと推察される。

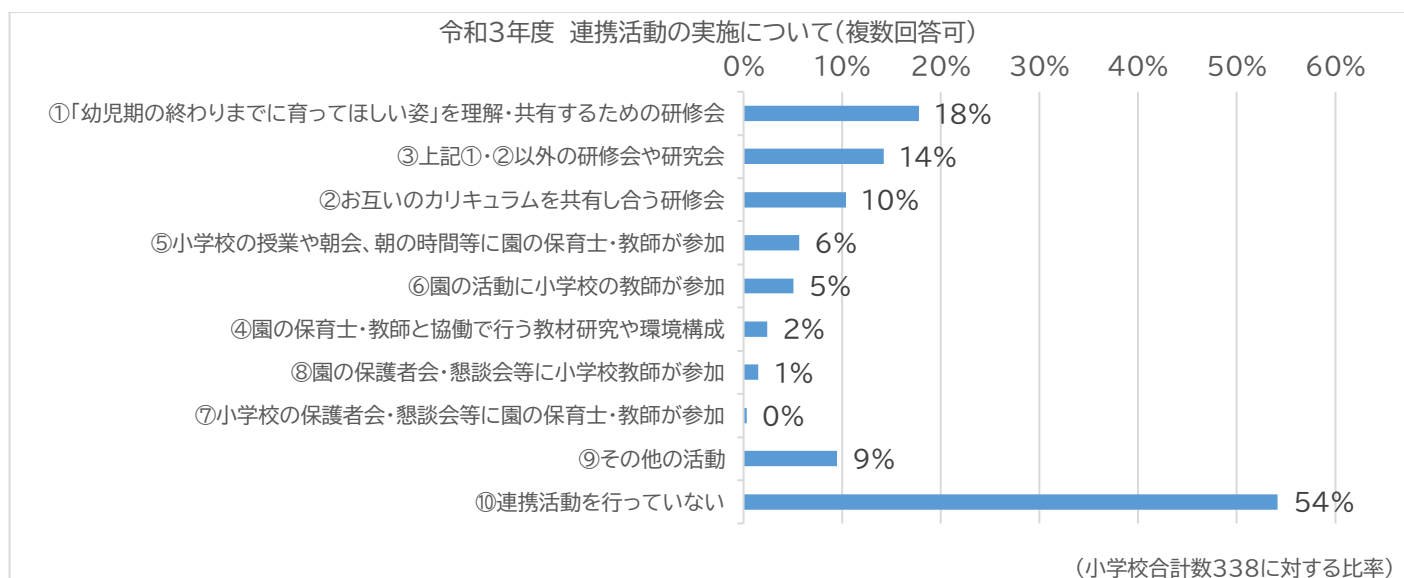
・また、子ども同士の直接的な交流(①)を行った73校の小学校に対するアンケート結果によれば、約84%の学校が複数回の交流活動を実施したと回答しており、これらの小学校では積極的に交流活動が行われたと見受けられる。

令和3年度	交流活動実施		
	1回以上 校数	複数回	
		校数	割合
①子ども同士が直接交流する活動(オンラインは含みません) (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	73	61	84%
②オンラインを活用し、子ども同士が同時進行で交流する活動 (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	10	4	40%
③ビデオレターや学校紹介・園紹介等の映像を通じた交流活動	120	61	51%
④子どもの作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動	131	67	51%
⑤植物栽培等、双方で同じ活動に取り組み、成長や取組の様子、工夫等を共有する活動	28	23	82%
⑥その他の活動	13	6	46%

Ⅱ 幼保小の職員間の連携活動に関すること（近隣やブロックの交流事業も含みます）

問3 近隣またはブロックや連携先の幼稚園・保育園・認定こども園と協働し、大人どうしと一緒に活動する「連携活動」を行いましたか。行なったものを選択してください。（複数回答可）

活動	校数
①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会	60
②お互いのカリキュラムを共有し合う研修会	35
③上記①・②以外の研修会や研究会	48
④園の保育士・教師と協働で行う教材研究や環境構成	8
⑤小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育士・教師が参加	19
⑥園の活動に小学校の教師が参加	17
⑦小学校の保護者会・懇談会等に園の保育士・教師が参加	1
⑧園の保護者会・懇談会等に小学校教師が参加	5
⑨その他の活動	32
⑩連携活動を行っていない	183

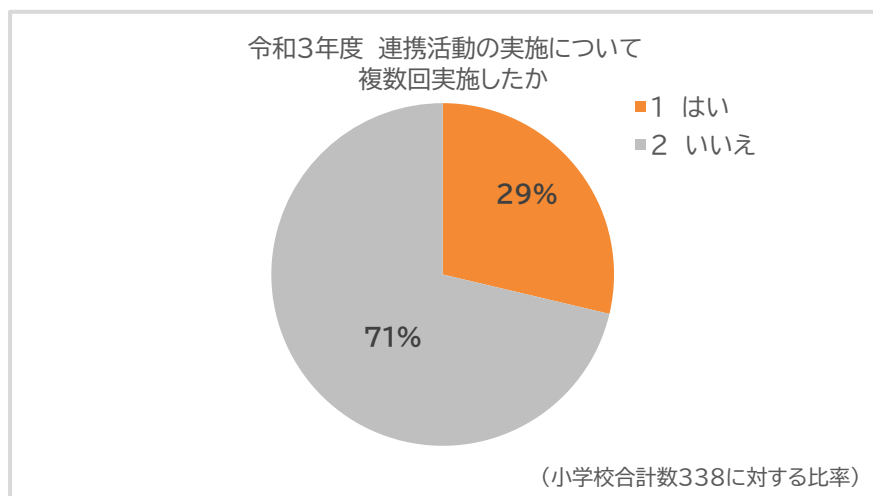


≪⑨その他の活動 自由記述 抜粋≫

- ・小学校や園の運動会を教師や保育士がお互いに参観する。
- ・幼保小連携の集まりで、互いの園の様子を話し合った
- ・1年生と園児の交流会の計画準備
- ・各園や学校の担当者が集まり、ブロックごとに話し合う相談会に年2回参加する。
- ・子どもの育ちがわかる学級だよりやドキュメンテーションなどをミニブックにして、ブロック内の園・学校で共有する活動。（現在進行中）
- ・年度初めに、幼保小連携の考え方の確認。小学校の避難訓練への参加。
- ・園児たちの園での生活の様子や、小学校入学後の生活などについて、情報交換を行った。
- ・学級だよりを毎週メールで送り、園の先生、園児、お迎えに来る保護者と共有した。
- ・教員による、幼稚園での一日職務体験
- ・時間割表を通してスタートカリキュラムをおこなった。
- ・年間の児童、園児の交流計画を話し合う。
- ・新型コロナ感染症流行のため、保育の様子を映像でみるなどしました。
- ・電話での連絡

「連携活動」は、年間で複数回行われましたか。(同じ項目で複数回「連携活動」をした場合も含む)
 ※上記設問で「⑩連携活動を行っていない」を選択した場合は、「2 いいえ」を選択してください。

	校数
1 はい	97
2 いいえ	241



【分析】

- ・連携活動を行っていないと回答した学校は54%であり半数を超えていた。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会(①)を実施したと回答した小学校の70%が、園の保育士・教師と協働で行う教材研究や環境構成(④)を行ったと回答した小学校の約75%が、年に複数回の研修会を実施したと回答あり、これらの小学校では継続的な活動が行われていたと推測される。

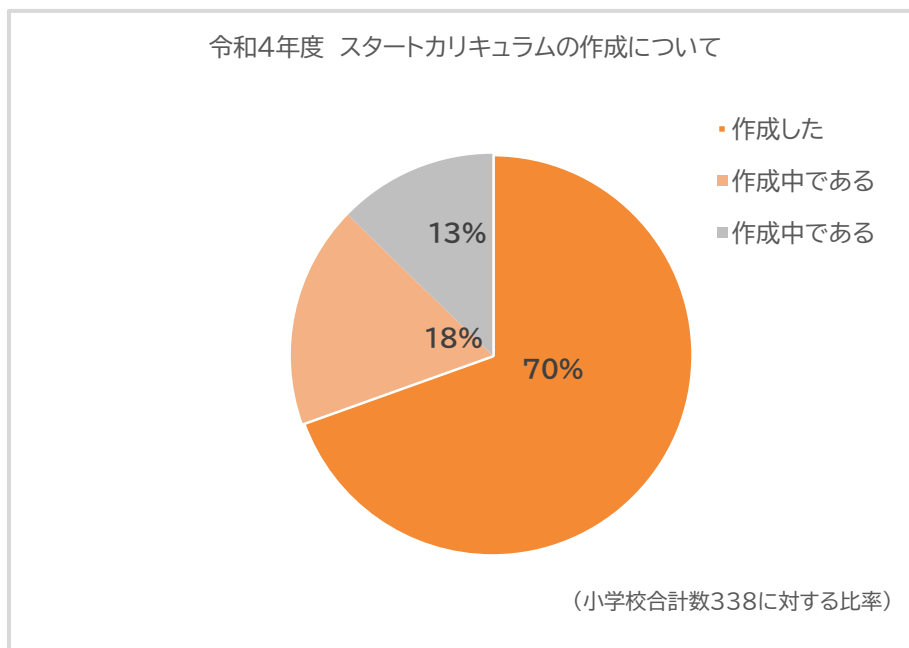
令和3年度	連携活動実施		
	1回以上 校数	複数回	
		校数	割合
①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(幼稚園、保育所、認定こども園修了時の幼児の具体的な姿であり、保育士や教員等が指導を行う際に考慮するもの)を理解・共有するための研修会	60	42	70%
②お互いのカリキュラムを共有し合う研修会	35	22	63%
③上記①・②以外の研修会や研究会(保育参観や授業参観も含めず)	48	31	65%
④園の保育士・教師と協働で行う教材研究や環境構成	8	6	75%
⑤小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育士・教師が参加	19	0	0%
⑥園の活動に小学校の教師が参加	17	0	0%
⑦小学校の保護者会・懇談会等に園の保育士・教師が参加	1	1	100%
⑧園の保護者会・懇談会等に小学校教師が参加	5	5	100%
⑨その他の活動 → 下の問4-⑨へ具体的な活動をお書きください	32	32	100%

II 今年度（令和4年度）実施した取組についてお答えください。

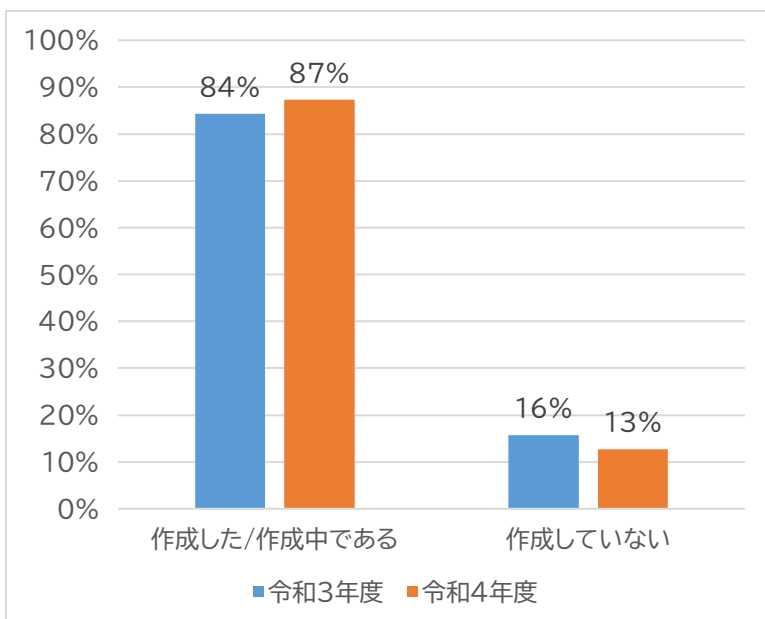
（今後実施する予定の取り組みも含みます）

問4 幼児期の保育・教育から小学校教育への円滑な接続を大切にしたい、入学当初のカリキュラム（スタートカリキュラム）は作成しましたか。

	校数
作成した	235
作成中である	60
作成していない	43



スタートカリキュラムの作成



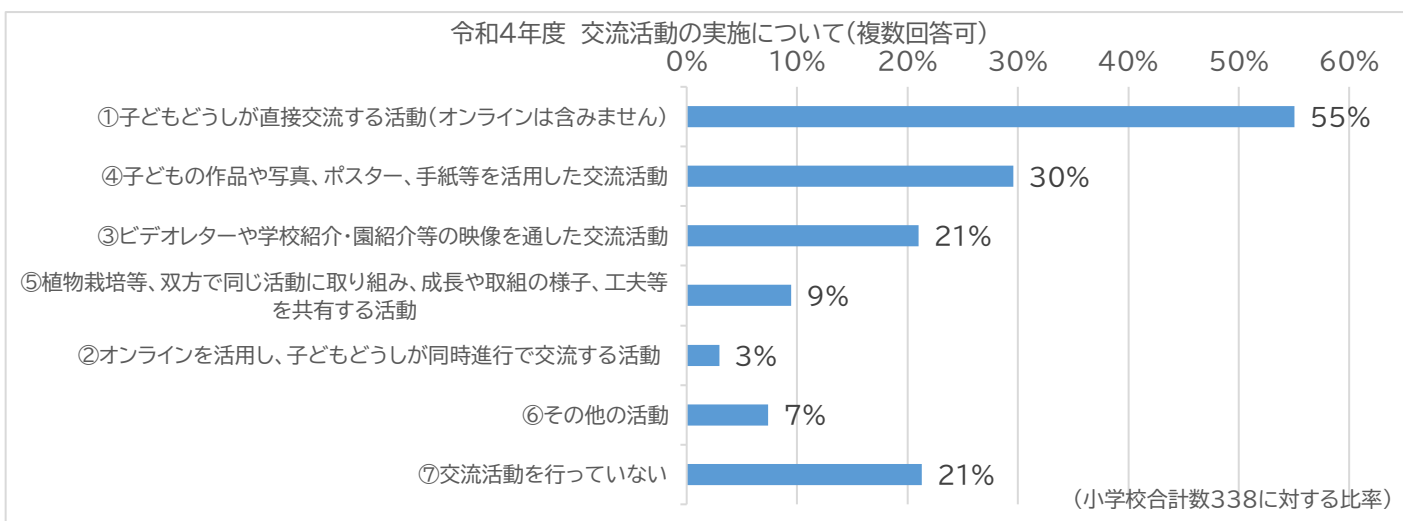
【分析】

・スタートカリキュラムの作成状況について調査した結果、作成済みおよび作成中の小学校の割合は約87%（295校）であり、令和3年度の約84%（285校）と比較して増加していることが確認された。この傾向から、スタートカリキュラムの取り組みが広がりを見せており、多くの小学校で実践されていることが示唆される。

I 幼保小児童間の交流活動に関すること

問5 近隣またはブロックや連携先の幼稚園・保育園・認定こども園と、子どもどうしと一緒に活動する「交流活動」を行いましたか。行なったものを選択してください。(複数回答可)

活動	校数
①子どもどうしが直接交流する活動(オンラインは含みません)	186
②オンラインを活用し、子どもどうしが同時進行で交流する活動	10
③ビデオレターや学校紹介・園紹介等の映像を通じた交流活動	71
④子どもの作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動	100
⑤植物栽培等、双方で同じ活動に取り組み、成長や取組の様子、工夫等を共有する活動	32
⑥その他の活動	25
⑦交流活動を行っていない	72



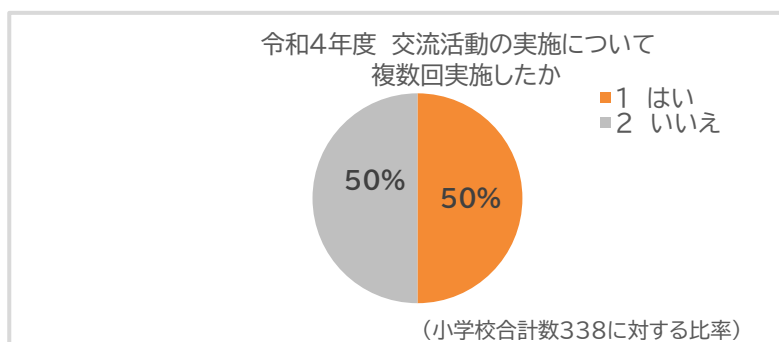
《⑥その他の活動 自由記述 抜粋》

- ・オンラインで朝の会を一緒に行った
- ・同じ公園で同じ時間にそれぞれの活動を行う。
- ・1年生は、学校説明の動画を取り、DVDにして各園へ渡す予定です。5年生は、2月頃に、直接あって、小学校を案内する予定です。
- ・時間割表を通してスタートカリキュラムをおこなった。

交流活動は、年間で複数回行われましたか。(同じ項目で複数回「連携活動」をした場合も含む)

※上記設問で「⑦交流活動を行っていない」を選択した場合は、「2 いいえ」を選択してください。

	校数
1 はい	169
2 いいえ	169

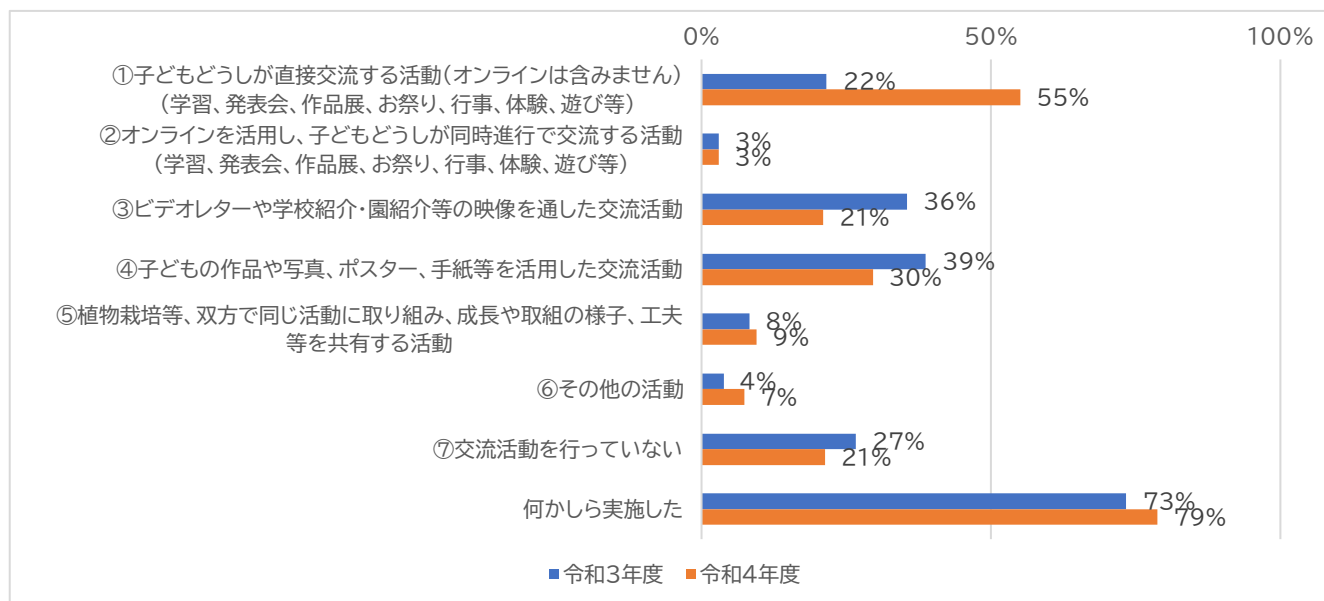


【分析】

・何らかの交流活動（①～⑥）を実施したと回答した小学校の割合は約79%（266校）であり、令和3年度の約73%（248校）に比べて増加していた。

・子どもどうしが直接交流する活動（①）を実施したと回答した小学校は約55%（186校）となっており、令和3年度の約22%（73校）に比べて、大幅に増えていることがわかった。一方で、写真やポスター・手紙、ビデオレターなどの物を媒体とした交流活動（③④）を行ったと回答した小学校は、令和3年度に比べて減少している。このことから、直接的な交流に重点を置いた取組が増加した一方で、物を媒体とした交流活動に割ける時間や人員が減少した可能性が考えられる。

交流活動



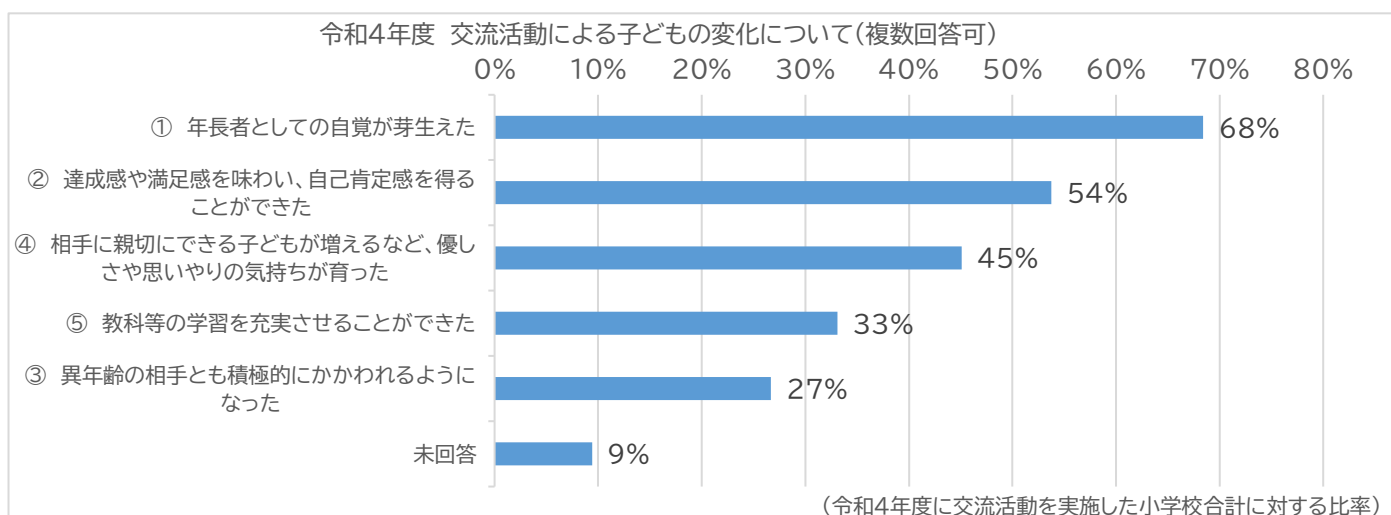
・交流活動を行った小学校の多くが、複数回実施したと回答しているが、ビデオレター等の映像（③）や作品や手紙等（④）を活用した交流活動を行った小学校は、複数回実施したと回答している割合が他のものとは比べて低い。この結果から、物を媒体とした交流活動は単発的な活動で終わる可能性が他のものとは比べて高いことが示唆される。

令和4年度	交流活動実施		
	1回以上 校数	複数回	
		校数	割合
①子どもどうしが直接交流する活動(オンラインは含みません) (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	186	139	75%
②オンラインを活用し、子どもどうしが同時進行で交流する活動 (学習、発表会、作品展、お祭り、行事、体験、遊び等)	10	9	90%
③ビデオレターや学校紹介・園紹介等の映像を通じた交流活動	71	43	61%
④子どもの作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動	100	66	66%
⑤植物栽培等、双方で同じ活動に取り組み、成長や取組の様子、工夫等を共有する活動	32	32	100%
⑥その他の活動	25	9	36%

幼稚園・保育園・認定こども園との「交流活動」を行なった学校に質問です。

問6 子どもにどのような変化がありましたか。(複数回答可)

活動	校数
① 年長者としての自覚が芽生えた	182
② 達成感や満足感を味わい、自己肯定感を得ることができた	143
③ 異年齢の相手とも積極的にかかわれるようになった	71
④ 相手に親切にできる子どもが増えるなど、優しさや思いやりの気持ちが育った	120
⑤ 教科等の学習を充実させることができた	88
未回答	25



《その他の変化 自由記述 抜粋》

- ・自分たちで計画して、活動をつくるという意識が高まった。
- ・人とかかわる力が育った。
- ・就学予定児童の不安感の軽減、入学に際して見通しをもつため相手を意識して自分達で計画し、目的のために自分で考えて行動する力を伸ばすことができた。
- ・新一年生の入学を心待ちにするようになった。
- ・3回の交流会を見通して、目的意識をもって活動する姿が見られた。相手意識をもつことができていた。

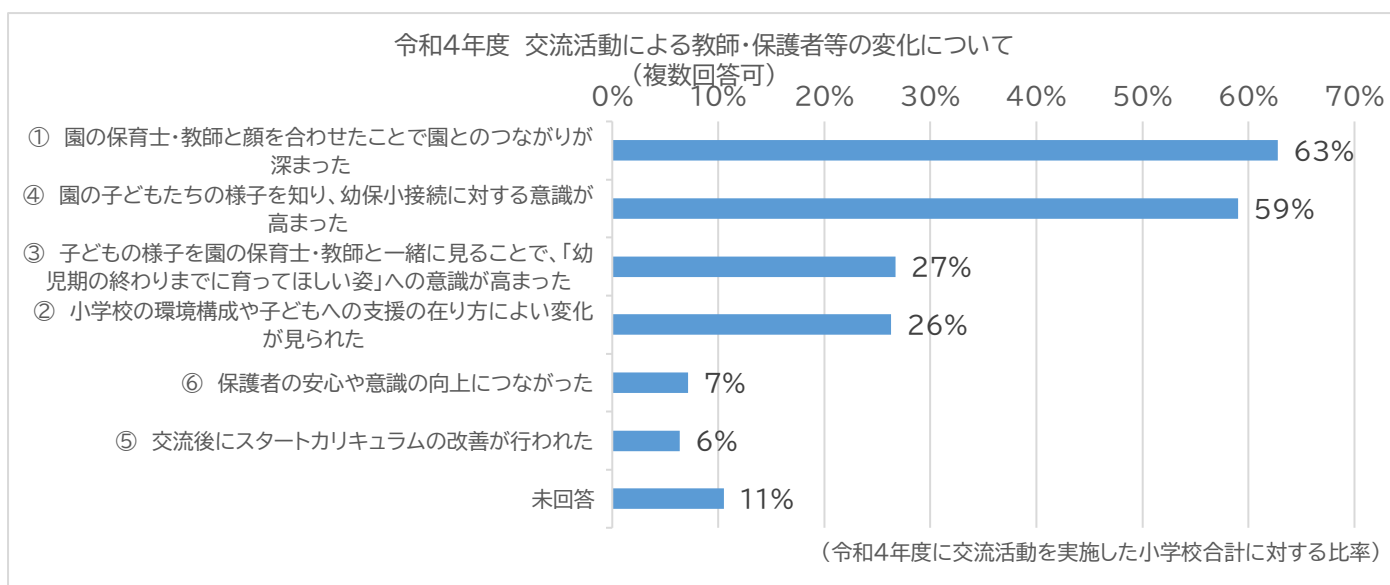
【分析】

・問5で、子どもどうしが直接交流する活動(①)及び、ビデオレター等の映像又は作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動(③または④)を行ったと回答した小学校69校のうち、80%(55校)が年長者としての自覚が芽生えた(①)、72%(50校)が達成感や満足感を味わい、自己肯定感を得ることができた(②)と回答した。この結果から、直接交流に加えビデオレターや手紙等を利用することで、児童が年長者としての自覚や自己肯定感を育む事への効果が特に高いと示唆される。

	対象69校の変化	
	校数	割合
① 年長者としての自覚が芽生えた	55	80%
② 達成感や満足感を味わい、自己肯定感を得ることができた	50	72%
③ 異年齢の相手とも積極的にかかわれるようになった	32	46%
④ 相手に親切にできる子どもが増えるなど、優しさや思いやりの気持ちが育った	44	64%
⑤ 教科等の学習を充実させることができた	29	42%

問7 教師・保護者等にどのような変化がありましたか。(複数回答可)

変化	校数
① 園の保育士・教師と顔を合わせたことで園とのつながりが深まった	167
② 小学校の環境構成や子どもへの支援の在り方により変化が見られた	70
③ 子どもの様子を園の保育士・教師と一緒に見ることで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への意識が高まった	71
④ 園の子どもたちの様子を知り、幼保小接続に対する意識が高まった	157
⑤ 交流後にスタートカリキュラムの改善が行われた	17
⑥ 保護者の安心や意識の向上につながった	19
未回答	28



《その他の変化 自由記述 抜粋》

- ・特別支援教育の視点での支援についての連携が図られた。入学後も園と小学校でいつでも連携が取れる状況になっている。
- ・コロナ禍で、交流は最小限になっていたが、今年度から以前の形に戻した。園の先生と共に、この経験があるのとないのでは大違いだと感じている。
- ・年長児ができていくことがよくわかり、指導内容に活かさせた。

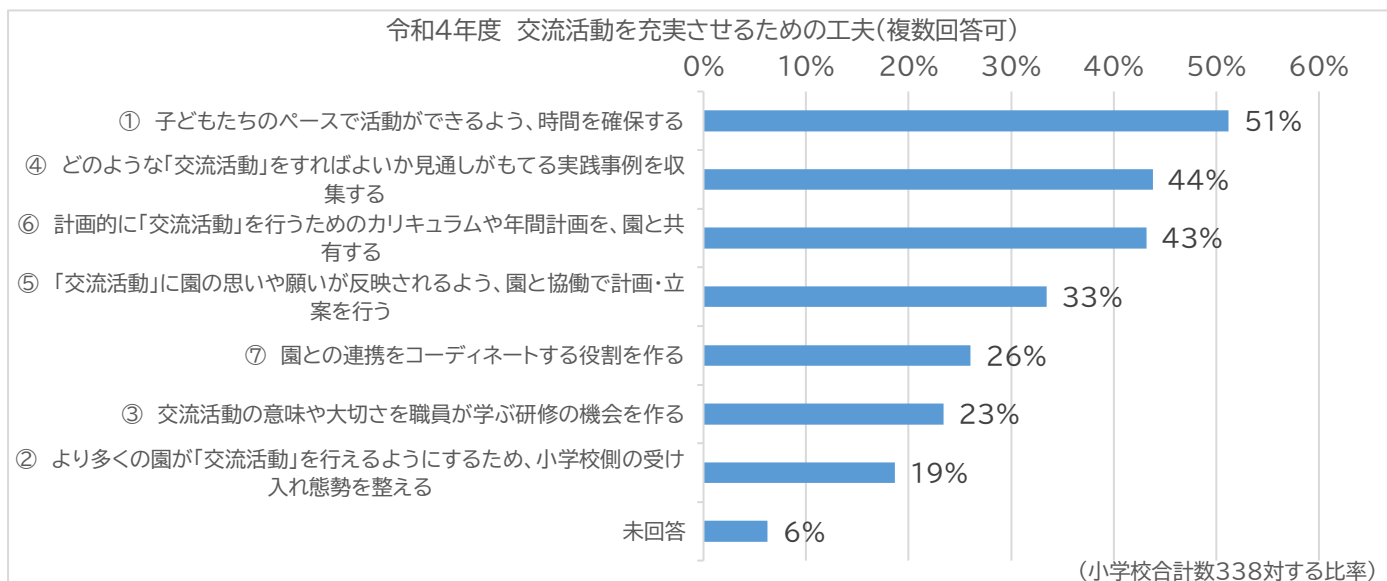
【分析】

・問5で子どもどうしが直接交流する活動(①)及び、ビデオレター等の映像又は作品や写真、ポスター、手紙等を活用した交流活動(③または④)を行ったと回答した小学校69校のうち、87%(60校)が園とのつながりが深まった(①)と回答し、81%(56校)が幼保小接続に対する意識が高まった(④)と回答した。子ども同士の直接交流と、物を媒体とした交流を組み合わせることによる効果が特に高かったことが示唆される。

	対象69校の変化	
	校数	割合
① 園の保育士・教師と顔を合わせたことで園とのつながりが深まった	60	87%
② 小学校の環境構成や子どもへの支援の在り方により変化が見られた	21	30%
③ 子どもの様子を園の保育士・教師と一緒に見ることで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への意識が高まった	28	41%
④ 園の子どもたちの様子を知り、幼保小接続に対する意識が高まった	56	81%
⑤ 交流後にスタートカリキュラムの改善が行われた	8	12%
⑥ 保護者の安心や意識の向上につながった	8	12%

問8 「交流活動」をより充実させるためには、どのような工夫が必要と考えますか。(複数回答可)

工夫	校数
① 子どもたちのペースで活動ができるよう、時間を確保する	173
② より多くの園が「交流活動」を行えるようにするため、小学校側の受け入れ態勢を整える	63
③ 交流活動の意味や大切さを職員が学ぶ研修の機会を作る	79
④ どのような「交流活動」をすればよいか見通しがもてる実践事例を収集する	148
⑤ 「交流活動」に園の思いや願いが反映されるよう、園と協働で計画・立案を行う	113
⑥ 計画的に「交流活動」を行うためのカリキュラムや年間計画を、園と共有する	146
⑦ 園との連携をコーディネートする役割を作る	88
未回答	21



《その他の工夫 自由記述 抜粋》

- ・コロナの影響もあり、園の先生とも顔を合わせる機会がなかった。コロナの対策が変わってきているので、今後は交流がしていけるのかもしれません。
- ・感染症予防について、園と学校で共通理解をして、実施できる条件を整える必要性を感じました。不安がある中で、直接顔を合わせる活動に踏み切れない状況です。
- ・どの園からも、「学校での計画に合わせます」と言われたが、何度か交流を重ねるためには、園との連携を取る窓口があり、一同に会せるとよいと思う。
- ・園とのやりとりをするためのシートのフォーマットがあると便利
- ・子どもたちを校外に出す時の職員の人数増やす。
- ・1校に8園と、数が多いので、日程の調整などのやり取りやそれぞれの円のニーズの違いもあり、学校に来ていただく時間や交流する機会がもてないので、来年度以降はもう少し早くこうりゅうの機会をスタートできればいいなと思います。
- ・現状では、感染症対策の観点からも、距離をとって安全性を確保して対面するのは難しいと感じました。準備をする時間と予算、人員の確保があれば、現実的に考えられるように思います。
- ・幼保小連携に割くことができる時間精一杯を使って、活動をしました。これ以上時間は生み出すのは難しいです。

【分析】

・問5で何らかの交流活動を実施したと回答した小学校は、交流活動を実施していないと回答した小学校に比べて、より多くの工夫を選択している傾向がある。

・何らかの交流活動を実施したと回答した小学校では、子どもたちがペースで活動ができるように時間を確保する(①)と回答した割合が最も高い(56%)。一方、交流活動を実施していないと回答した小学校では、園と共有するための計画的なカリキュラムや年間計画を作成する(⑥)と回答した割合が最も高い(40%)。このことから、園との共有体制が課題となり交流活動を実施できていない可能性が示唆される。

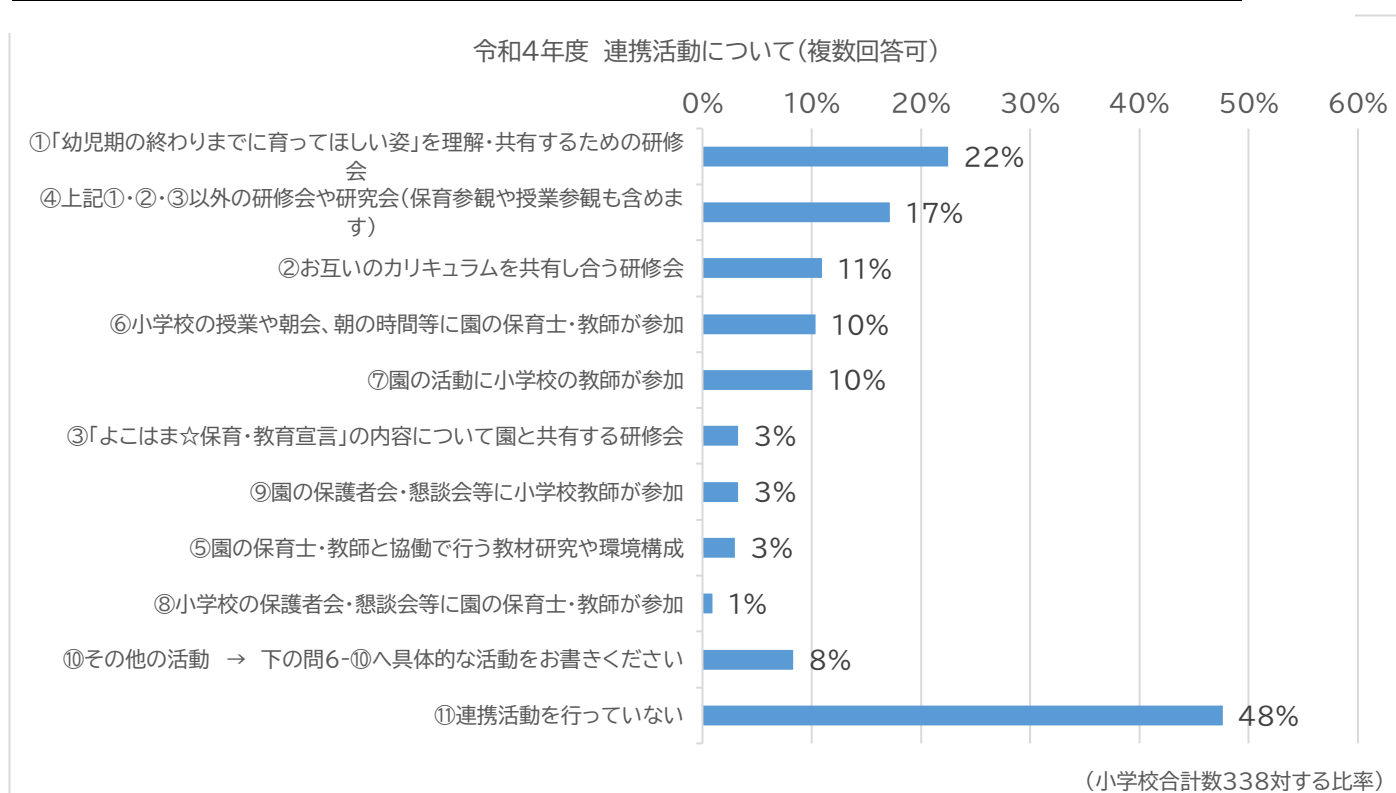
・何らかの交流活動を実施したと回答した小学校と実施していないと回答した小学校を比較した集計結果は、以下の通りである。

	何らかの交流活動した小学校 266校		交流活動していない小学校 72校	
	校数	割合	校数	割合
① 子どもたちのペースで活動ができるよう、時間を確保する	148	56%	25	35%
② より多くの園が「交流活動」を行えるようにするため、小学校側の受け入れ態勢を整える	48	18%	15	21%
③ 交流活動の意味や大切さを職員が学ぶ研修の機会を作る	62	23%	17	24%
④ どのような「交流活動」をすればよいか見通しがもてる実践事例を収集する	122	46%	26	36%
⑤ 「交流活動」に園の思いや願いが反映されるよう、園と協働で計画・立案を行う	97	36%	16	22%
⑥ 計画的に「交流活動」を行うためのカリキュラムや年間計画を、園と共有する	117	44%	29	40%
⑦ 園との連携をコーディネートする役割を作る	70	26%	18	25%

Ⅱ 幼保小の職員間の連携活動に関すること（近隣やブロックの交流事業も含みます）

問9 近隣またはブロックや連携先の幼稚園・保育園・認定こども園と協働し、大人どうしが一緒に活動する「連携活動」を行いましたか。行なったものを選択してください。（複数回答可）

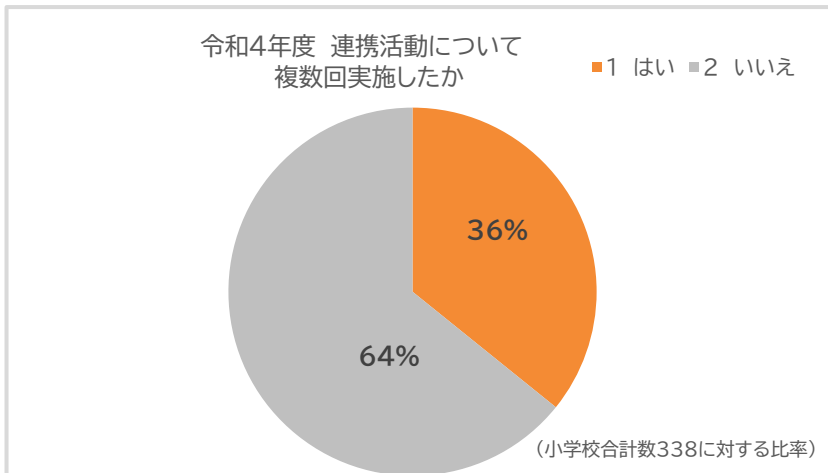
連携活動	校数
①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会	76
②お互いのカリキュラムを共有し合う研修会	37
③「よこはま☆保育・教育宣言」の内容について園と共有する研修会	11
④上記①・②・③以外の研修会や研究会（保育参観や授業参観も含めます）	58
⑤園の保育士・教師と協働で行う教材研究や環境構成	10
⑥小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育士・教師が参加	35
⑦園の活動に小学校の教師が参加	34
⑧小学校の保護者会・懇談会等に園の保育士・教師が参加	3
⑨園の保護者会・懇談会等に小学校教師が参加	11
⑩その他の活動 → 下の問6・⑩へ具体的な活動をお書きください	28
⑪連携活動を行っていない	161



- ・各園や学校の担当者が集まり、ブロックごとに話し合う相談会に年2回参加する。
- ・新年度に入学する児童の情報共有や、担当者（養護教諭や児童支援専任）による園の保育参観
- ・小学校教師による保育園体験研修
- ・小学校の避難訓練への参加。
- ・園長校長会に参加、園関係者が小学校運動会参観
- ・新1年生が小学校生活を円滑にスタートできるように、児童一人ひとりについての情報を共有する機会を設けた。
- ・園児の引き継ぎを、園のカリキュラムを学びながらした。
- ・年間計画の確認、ウィンターコンサートの打ち合わせ
- ・入学説明会の日に行う体験授業を園と小学校の教諭が協力して進める。
- ・交流活動のための打ち合わせを行った。

「連携活動は」年間で複数回行われましたか。(同じ項目で複数回「連携活動」をした場合も含む)

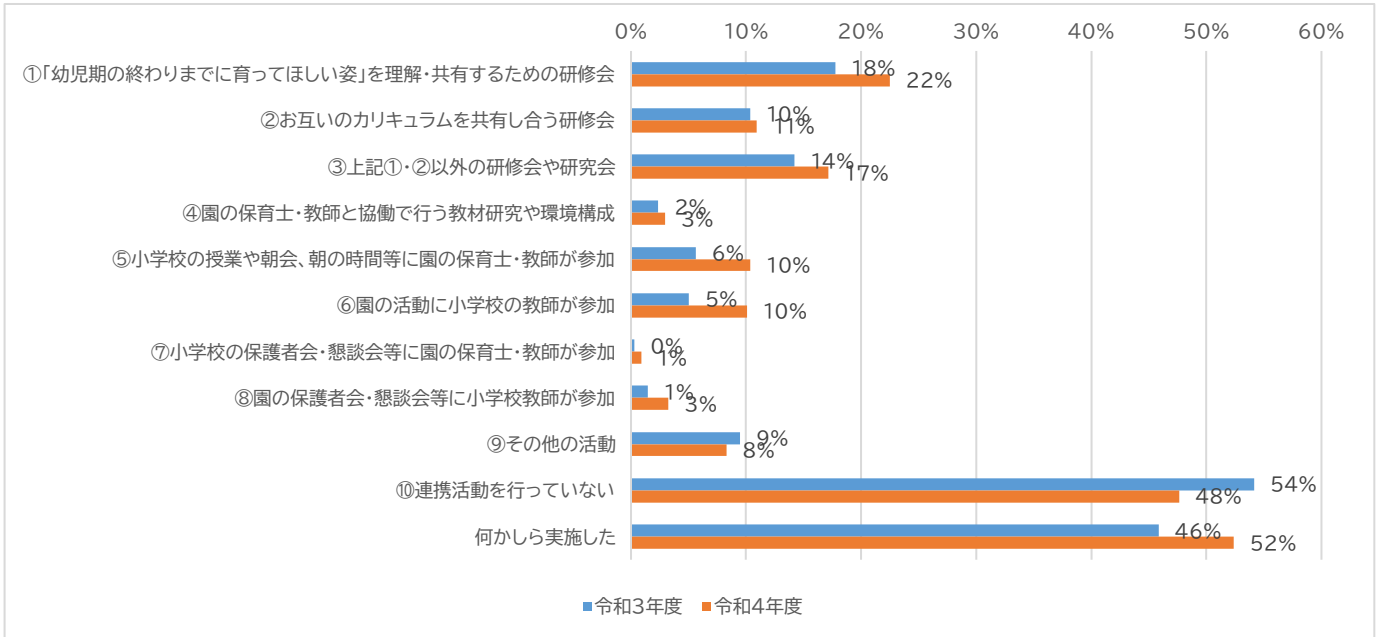
	校数
1 はい	121
2 いいえ	217



【分析】

- ・全ての活動内容について、実施したと回答した小学校が令和3年度に比べて増加していた。
- ・令和4年度から増えた「よこはま☆保育・教育宣言」の内容について園と共有する研修会（③）を実施したと回答した小学校は、全体の約3%（11校）となっている。このことから、新しい取組に対する活動はまだ普及していないことが示唆される。

連携活動

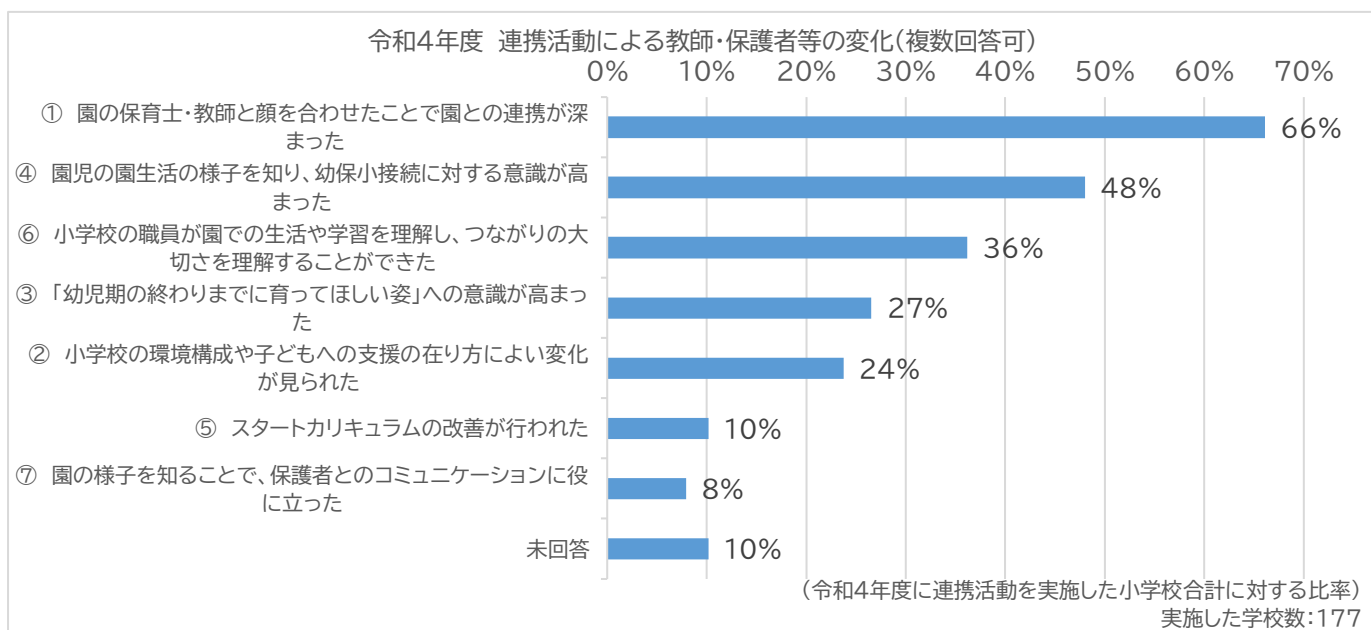


- ・令和4年度に職員間の連携活動を行った小学校の多くが複数回実施したと回答しており、単発的な活動にとどまらず、園と複数回交流している事がわかる。

令和4年度	連携活動実施		
	1回以上 校数	複数回	
		校数	割合
①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(幼稚園、保育所、認定こども園修了時の幼児の具体的な姿であり、保育士や教員等が指導を行う際に考慮するもの)を理解・共有するための研修会	76	58	76%
②お互いのカリキュラムを共有し合う研修会	37	29	78%
③「よこはま☆保育・教育宣言」の内容について園と共有する研修会	11	9	82%
④上記①・②以外の研修会や研究会(保育参観や授業参観も含めず)	58	43	74%
⑤園の保育士・教師と協働で行う教材研究や環境構成	10	10	100%
⑥小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育士・教師が参加	35	30	86%
⑦園の活動に小学校の教師が参加	34	33	97%
⑧小学校の保護者会・懇談会等に園の保育士・教師が参加	3	1	33%
⑨園の保護者会・懇談会等に小学校教師が参加	11	11	100%
⑩その他の活動	28	18	64%

問10 近隣またはブロックや連携先の幼稚園・保育園・認定こども園と「連携活動」を行った学校に質問です。「連携活動」を行い、教師・保護者等にどのような変化がありましたか。(複数回答可)

変化	校数
① 園の保育士・教師と顔を合わせたことで園との連携が深まった	117
② 小学校の環境構成や子どもへの支援の在り方により変化が見られた	42
③ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への意識が高まった	47
④ 園児の園生活の様子を知り、幼保小接続に対する意識が高まった	85
⑤ スタートカリキュラムの改善が行われた	18
⑥ 小学校の職員が園での生活や学習を理解し、つながりの大切さを理解することができた	64
⑦ 園の様子を知ることで、保護者とのコミュニケーションに役に立った	14
未回答	18



≪問10 その他の連携活動 自由記述 抜粋≫

- ・年度初めに保育園の先生に来ていただくことで、子どもの安心感につながった。
- ・幼稚園・保育園から小学校へのギャップが子どもたちにとってとても大きいものであり、それが子どもたちの不安に繋がっていることを改めて感じた。コロナ前は入学してから数回保育士さんがクラスに入ってくださっていたが、そういった活動が子どもたちの安心に繋がっていたのだろうと感じた。
- ・どの小学校と幼稚園・保育園がグループになるのか分かりづらかったが、最初に顔を合わせていたおかげで、連携を取りやすくなった。コロナのため、交流計画を立てるのが難しかった。

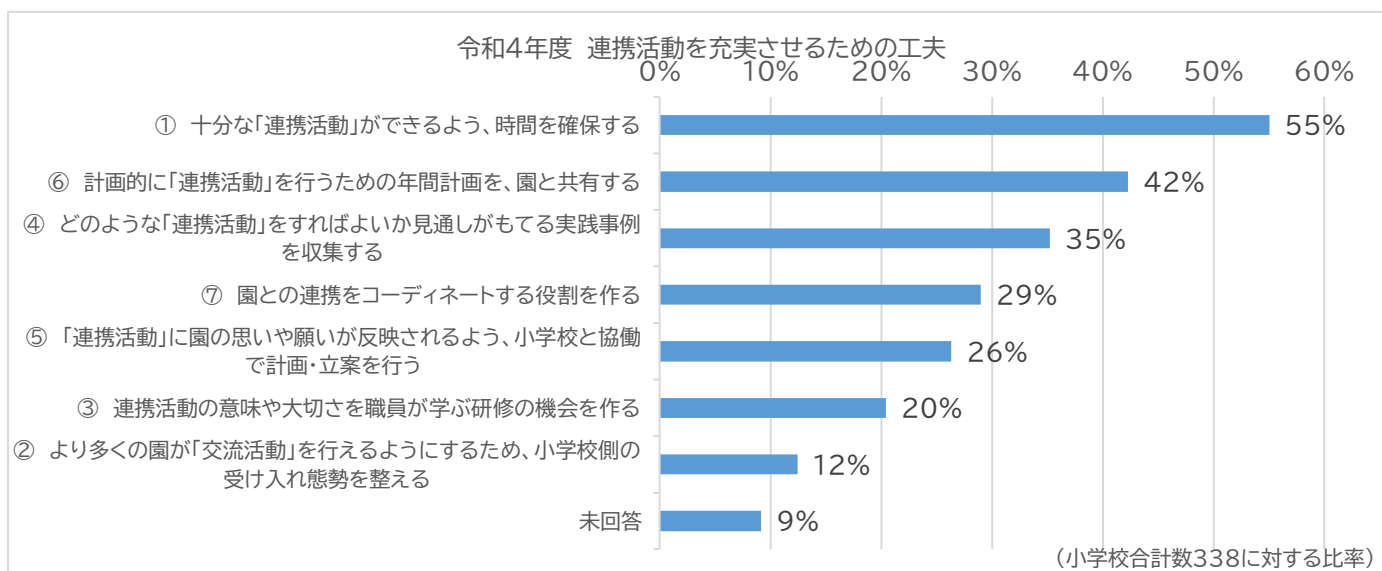
【分析】

・園の保育士・教師と顔を合わせたことで園との連携が深まった(①)と回答した割合が最も高く66%であった。次いで、48%の学校が園児の園生活の様子を知り、幼保小接続に対する意識が高まった(④)と回答している。

・園の様子を知ることで、保護者とのコミュニケーションに役立った(⑦)と回答した割合は最も低かった(8%)。このことから、職員間の連携活動は幼保接続には効果的である一方で、保護者へのアプローチには有効でない可能性が高い。

問11 「連携活動」をより充実させるためには、どのような工夫が必要と考えますか。(複数回答可)

工夫	校数
① 十分な「連携活動」ができるよう、時間を確保する	186
② より多くの園が「交流活動」を行えるようにするため、小学校側の受け入れ態勢を整える	42
③ 連携活動の意味や大切さを職員が学ぶ研修の機会を作る	69
④ どのような「連携活動」をすればよいか見通しがもてる実践事例を収集する	119
⑤ 「連携活動」に園の思いや願いが反映されるよう、小学校と協働で計画・立案を行う	89
⑥ 計画的に「連携活動」を行うための年間計画を、園と共有する	143
⑦ 園との連携をコーディネートする役割を作る	98
未回答	31



≪問11 その他の工夫 自由記述 抜粋≫

- ・担任や専任とは別に連携のコーディネート役を作ることができるとよいが、実際には難しいと思っている。
- ・しっかり準備して活動するだけでなく、気軽に交流することができる機会を作ると交流が増えるのではないかな。
- ・人手の確保

【分析】

- ・問9で何らかの連携活動を実施したと回答した小学校の方が工夫についての選択率が高い。
- ・実施した小学校の半数以上が時間を確保する(①)ことが重要であると感じていることがわかる。また、実施していない学校においても①の選択率が最も高い。この結果から、学校が時間の確保を重要視していることがわかる。

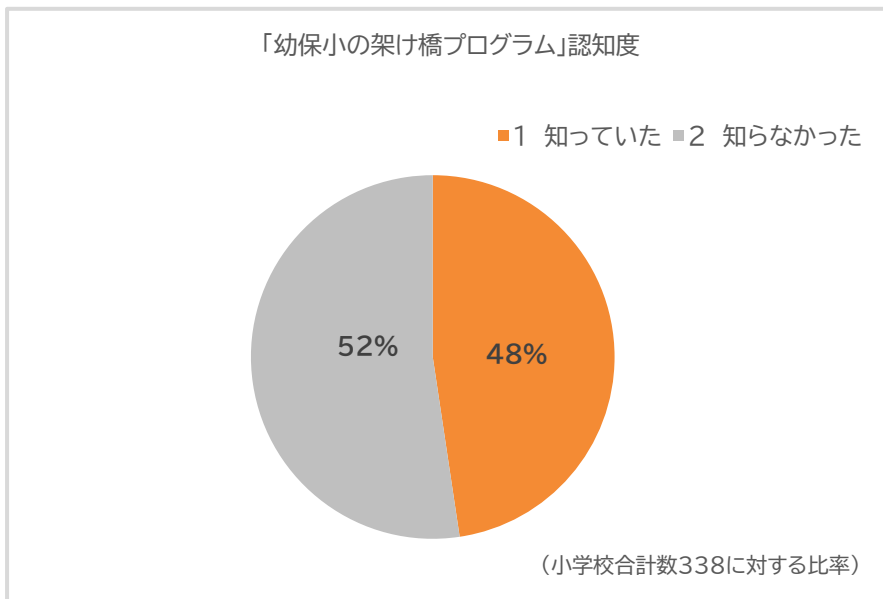
何らかの連携活動を実施したと回答した小学校と実施していないと回答した小学校を分けて集計した結果は、以下のとおりである。

	連携活動した小学校 合計177校		連携活動していない小学校 合計161	
	校数	割合	校数	割合
① 十分な「連携活動」ができるよう、時間を確保する	107	60%	79	49%
② より多くの園が「交流活動」を行えるようにするため、小学校側の受け入れ態勢を整える	26	15%	16	10%
③ 連携活動の意味や大切さを職員が学ぶ研修の機会を作る	37	21%	32	20%
④ どのような「連携活動」をすればよいか見通しがもてる実践事例を収集する	64	36%	55	34%
⑤ 「連携活動」に園の思いや願いが反映されるよう、小学校と協働で計画・立案を行う	57	32%	32	20%
⑥ 計画的に「連携活動」を行うための年間計画を、園と共有する	77	44%	66	41%
⑦ 園との連携をコーディネートする役割を作る	53	30%	45	28%

Ⅲ 「幼保小架け橋プログラム」についてお答えください。

問12 今年度から「幼保小の架け橋プログラム」が始まったことを知っていましたか

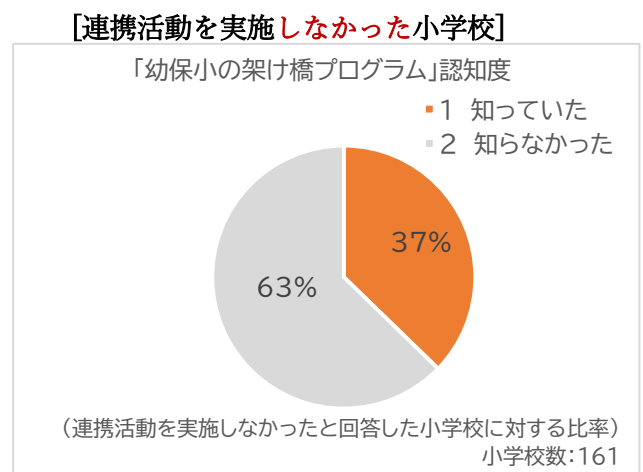
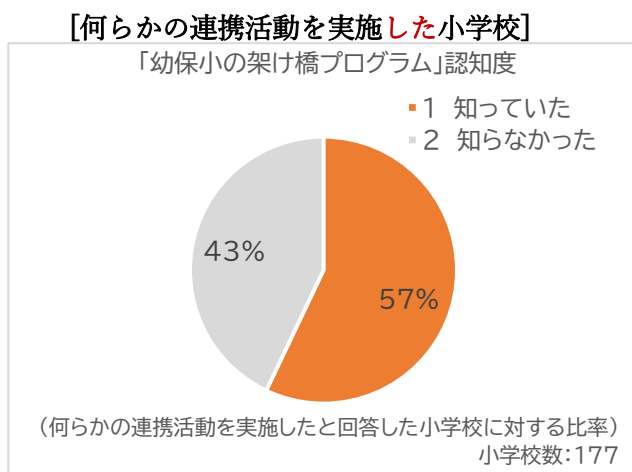
	校数
1 知っていた	161
2 知らなかった	177



【分析】

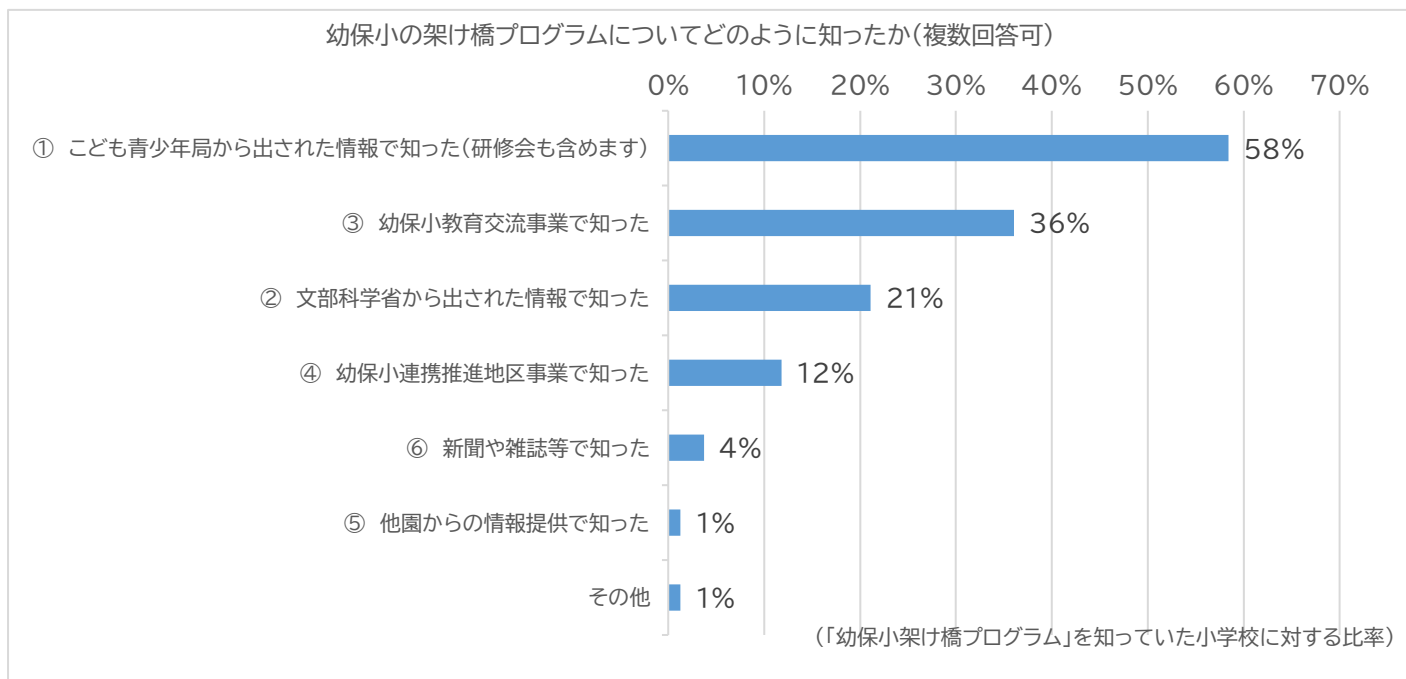
・問9で連携活動を実施したと回答した小学校のうち、幼保小の架け橋プログラムが始まった事を知っていたと回答した割合は半数以上（57%）であるのに対し、実施しなかったと回答小学校では半数以下（37%）となっている。このことから、連携活動の実施が架け橋プログラムの認知度向上に効果があることが示唆される。

・何らかの連携活動を実施したと回答した小学校と、実施していないと回答した小学校を分けて集計した結果は、以下のとおりである。



問13 「幼保小の架け橋プログラム」についてどのように知りましたか（複数回答可）

手段	校数
① こども青少年局から出された情報で知った（研修会も含めます）	94
② 文部科学省から出された情報で知った	34
③ 幼保小教育交流事業で知った	58
④ 幼保小連携推進地区事業で知った	19
⑤ 他園からの情報提供で知った	2
⑥ 新聞や雑誌等で知った	6
その他	2

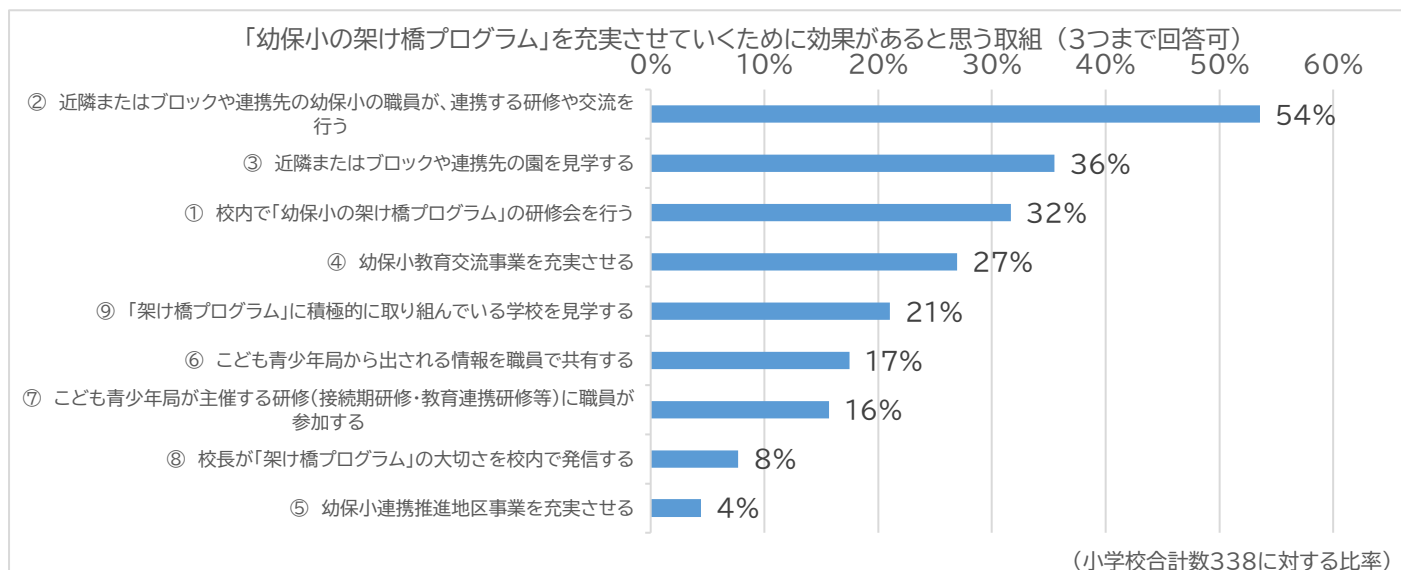


【分析】

・問12において、幼保小架け橋プログラムについて知っていたと回答した小学校161校のうち、半数以上である58%（94校）の小学校が「こども青少年局からの情報により知った（①）」と回答している。

問14 「幼保小の架け橋プログラム」を充実させていくために効果があると思う取組は何ですか。
(3つまで選んでください)

取組	校数
① 校内で「幼保小の架け橋プログラム」の研修会を行う	107
② 近隣またはブロックや連携先の幼保小の職員が、連携する研修や交流を行う	181
③ 近隣またはブロックや連携先の園を見学する	120
④ 幼保小教育交流事業を充実させる	91
⑤ 幼保小連携推進地区事業を充実させる	15
⑥ こども青少年局から出される情報を職員で共有する	59
⑦ こども青少年局が主催する研修(接続期研修・教育連携研修等)に職員が参加する	53
⑧ 校長が「架け橋プログラム」の大切さを校内で発信する	26
⑨ 「架け橋プログラム」に積極的に取り組んでいる学校を見学する	71



≪問14 その他の取組 自由記述 抜粋≫

- ・時間を確保すること
- ・理想も大切だが、予算の拡充と、人材確保が必要だと思う。

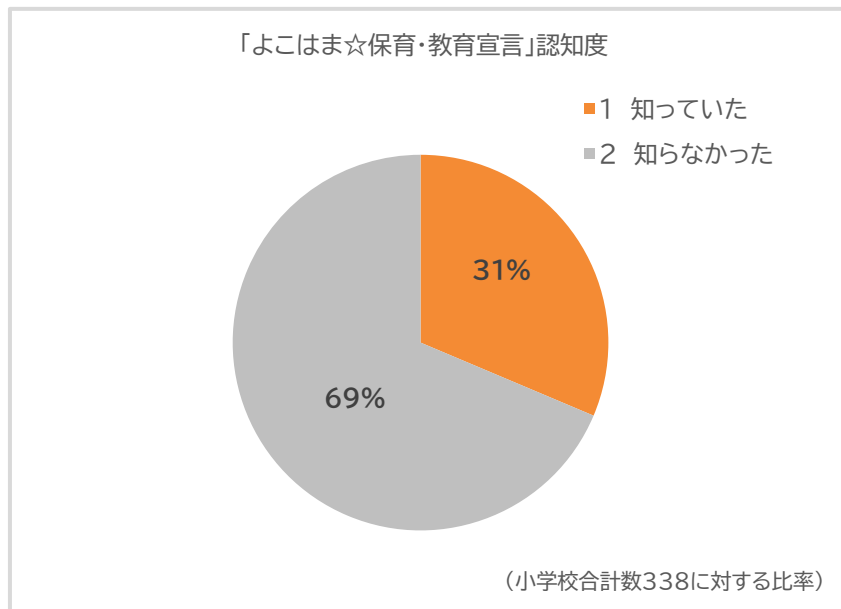
【分析】

・「幼保小の架け橋プログラム」を知っていたと回答した小学校は、知らなかったと回答した小学校に比べて、工夫についての選択率が高い傾向がある。いずれも職員が連携する研修や交流を行う(②)を選択した割合が最も高い。

	知っていた 161校		知らなかった 177校	
	校数	割合	校数	割合
① 校内で「幼保小の架け橋プログラム」の研修会を行う	50	31%	57	32%
② 近隣またはブロックや連携先の幼保小の職員が、連携する研修や交流を行う	101	63%	80	45%
③ 近隣またはブロックや連携先の園を見学する	66	41%	54	31%
④ 幼保小教育交流事業を充実させる	49	30%	42	24%
⑤ 幼保小連携推進地区事業を充実させる	9	6%	6	3%
⑥ こども青少年局から出される情報を職員で共有する	28	17%	31	18%
⑦ こども青少年局が主催する研修(接続期研修・教育連携研修等)に職員が参加する	30	19%	23	13%
⑧ 校長が「架け橋プログラム」の大切さを校内で発信する	13	8%	13	7%
⑨ 「架け橋プログラム」に積極的に取り組んでいる学校を見学する	36	22%	35	20%

問15 横浜市では、「よこはま☆保育・教育宣言」の具現化を通して「架け橋プログラム」の実現を目指しています。令和2年度に「よこはま☆保育・教育宣言」が出されたことを知っていましたか

	校数
1 知っていた	106
2 知らなかった	232

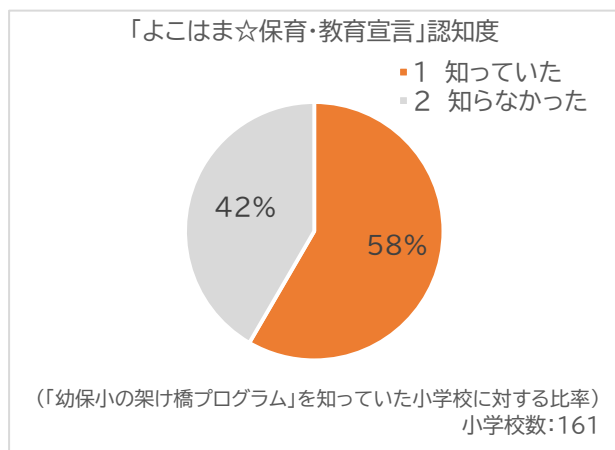


【分析】

・「幼保小の架け橋プログラム」を知っていたと回答した小学校の半数以上が「よこはま☆保育・教育宣言」についても知っていたと回答しているのに対し、「幼保小の架け橋プログラム」を知らなかったと回答した小学校の9割以上が「よこはま☆保育・教育宣言」についても知らなかったと回答している。この結果から、架け橋プログラムを知らない学校は、幼保接続に関する情報にアクセスする機会が限られている可能性が示唆される。

知っていたと回答した小学校と、知っていなかったと回答した小学校を分けて集計した結果は、下記のグラフのとおり。

【「幼保小の架け橋プログラム」を知っていた小学校】



【「幼保小の架け橋プログラム」を知らなかった小学校】

